

s t u d y

G

e

2024年度
(令和6年度)

履修の手引き

人間環境大学

心理学部

心理学科
犯罪心理学科

2 0 2 4

2024年度(令和6年度)人間環境大学岡崎キャンパス 事務取扱時間・学内施設利用時間

事務取扱時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
教務課 総務課 学生支援課 就職・進路相談室		月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30 日祝 休業（ただし、祝日が授業日の場合は除く） ※学内行事によって事務窓口が閉鎖する場合があります	月～金 9:00～17:00 土 原則休業 日祝 休業

学内施設利用時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
食堂		月火木金 11:30～13:15 水 11:45～13:00 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
売店		月火木金 10:00～15:30 水 10:00～13:30 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
図書館		月～金 9:00～18:30 土 9:00～14:00 ※ただし、不定期開館のため、開館カレンダーを確認 日祝 休館	月～金 9:00～17:00 土 休館 日祝 休館
一般教室 (使用願要)		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～18:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
PC教室		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～20:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
体育館 (使用願要)		授業で使用していない時、昼休憩時間、 2号館で授業を行っていない時 月～金 9:00～18:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
クラブハウス 弓道場 コンテナハウス		一般教室の利用時間に準ずる	同 左
バス運行		運行表は別途掲示案内どおり	運 休 (臨時運行の場合、掲示案内)

※祝日授業日の事務取扱時間・学内施設利用時間は、授業・試験期間の月曜日～土曜日の規定に準じます。

※長期休業期間中ならびに補講・集中講義期間中の施設利用時間については、別途掲示連絡します。

※補講・集中講義期間中の食堂・売店営業およびスクールバスの運行については、別途掲示連絡します。

※入学試験等学内行事のための登校禁止日については、別途掲示連絡します。

※臨時で利用時間が変更になる場合は、その都度掲示連絡します。

※一般教室・PC教室・体育館を平日 20:00 まで使用する場合は、原則 1 週間前までに届け出ること。

CONTENTS

学年暦	1
年間行事予定表	2

第Ⅰ部 教育課程の履修について

1. 人間環境大学建学の精神	5
2. 心理学部の教育理念	5
3. 心理学部の教育課程について	7
4. 心理学部の教育システム	11
5. 学年度と授業について	14
6. 単位制について	17
7. 学修計画と履修登録について	19
8. 試験について	25
9. 成績評価について	27
10. 各種単位互換履修生制度	29
11. 取得可能な資格について	31

第Ⅱ部 カリキュラム

1. 心理学科カリキュラム・科目表	35
2. 犯罪心理学科カリキュラム・科目表	39

第Ⅲ部

1. 専任教員一覧・非常勤講師一覧	44
2. 人間環境大学心理学部心理学科教育課程および履修方法に関する規程	46
3. 人間環境大学心理学部犯罪心理学科教育課程および履修方法に関する規程	50
4. 人間環境大学授業に関する規程	55
5. 校舎案内図	58

2024年度(令和6年度) 学部学年暦

令和6年4月1日(月)～9月15日(日) …………… 前期

9月16日(月)～令和7年3月31日(月) …………… 後期

令和6年	4月3日(水)	入学式
	4月11日(木)	前期授業開始
	7月26日(金)	前期授業終了
	7月29日(月)～8月2日(金)	前期試験期間(予備日:8月5日(月))
	8月6日(火)	夏季休業開始
	9月9日(月)	前期成績発表
	9月19日(木)	夏季休業終了
	9月19日(木)	1年生後期オリエンテーション
	9月19日(木)	環境DS2年生後期オリエンテーション
	9月20日(金)	後期授業開始
	10月19日(土)～10月20日(日)	大学祭
	12月23日(月)	後期年内授業終了
	12月24日(火)～12月25日(水)	補講日
	12月28日(土)	冬季休業開始
令和7年	1月3日(金)	冬季休業終了
	1月8日(水)	卒業論文提出期限(卒業年次生)
	1月10日(金)	後期年明け授業開始
	1月24日(金)	後期授業終了
	1月27日(月)～1月31日(金)	後期試験期間(予備日:2月1日(土))
	3月1日(土)	卒業予定者発表
	3月1日(土)	在学生成績発表
	3月15日(土)	学位授与式
	3月17日(月)	春季休業開始
	3月31日(月)	学年終・後期終了

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定	
								日付	内容
4		1	2	3 ^{入学式}	4 ^{オリ}	5 ^{オリ}	6	3(水) 入学式 4(木)-10(水) オリエンテーション期間 4(木)-17(水) 履修登録期間 7(日)-8(月) 新入生ウェルカムキャンプ(1年生) 11(木) 前期授業開始 24(水)-26(金) 履修登録修正期間 29(月) 授業日	
	7 ^{オリ}	8 ^{オリ}	9 ^{オリ}	10	11 ^①	12 ^①	13		
	14	15 ^①	16 ^①	17 ^①	18 ^②	19 ^②	20		
	21	22 ^②	23 ^②	24 ^②	25 ^③	26 ^③	27		
	28	29 ^③	30 ^③						
5				1 ^③	2	3	4	6(月) 授業日 6(月)-10(金) 履修取消申請期間(前期・通年科目)	
	5	6 ^④	7 ^④	8 ^④	9 ^④	10 ^④	11		
	12	13 ^⑤	14 ^⑤	15 ^⑤	16 ^⑤	17 ^⑤	18		
	19	20 ^⑥	21 ^⑥	22 ^⑥	23 ^⑥	24 ^⑥	25		
	26	27 ^⑦	28 ^⑦	29 ^⑦	30 ^⑦	31 ^⑦			
6							1		
	2	3 ^⑧	4 ^⑧	5 ^⑧	6 ^⑧	7 ^⑧	8		
	9	10 ^⑨	11 ^⑨	12 ^⑨	13 ^⑨	14 ^⑨	15		
	16	17 ^⑩	18 ^⑩	19 ^⑩	20 ^⑩	21 ^⑩	22		
	23	24 ^⑪	25 ^⑪	26 ^⑪	27 ^⑪	28 ^⑪	29		
	30								
7		1 ^⑫	2 ^⑫	3 ^⑫	4 ^⑫	5 ^⑫	6	15(月) 授業日(海の日) 7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間(予備日8/5)	
	7	8 ^⑬	9 ^⑬	10 ^⑬	11 ^⑬	12 ^⑬	13		
	14	15 ^⑭	16 ^⑭	17 ^⑭	18 ^⑭	19 ^⑭	20		
	21	22 ^⑮	23 ^⑮	24 ^⑮	25 ^⑮	26 ^⑮	27		
	28	29	30	31					
8					1	2	3	7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間(予備日8/5) 6(火) 夏季休業開始 7(水)/9(金) 追試験願提出期限/追試験許可証発行 19(月)-23(金) 前期追試験期間	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19 ^追	20 ^追	21 ^追	22 ^追	23 ^追	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
9	1	2	3	4	5	6	7	9(月) 前期成績発表(学部) 14(土) 登校禁止日 19(木) 夏季休業終了/1年生後期オリエンテーション/環境DS2年生後期オリエンテーション 20(金) 後期授業開始 19(木)~26(木) 履修登録修正期間 23(月) 授業日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20 ^①	21		
	22	23 ^①	24 ^①	25 ^①	26 ^①	27 ^②	28		
	29	30 ^②							

 : 授業日〔①~⑮〕
 : 試験日
 1 (斜体数字) 日曜・祝日
 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

 : 事務窓口休業

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定			
								日付	内容		
10			1 ^②	2 ^②	3 ^②	4 ^③	5	4(金)~10(木) 5(土) 14(月) 18(金) 19(土)-20(日)	履修取消申請期間(後期科目) 登校禁止日 授業日 休講日 大学祭		
	6	7 ^③	8 ^③	9 ^③	10 ^③	11 ^④	12				
	13	14 ^④	15 ^④	16 ^④	17 ^④	18	19				
	20	21 ^⑤	22 ^⑤	23 ^⑤	24 ^⑤	25 ^⑤	26				
	27	28 ^⑥	29 ^⑥	30 ^⑥	31 ^⑥						
11						1 ^⑥	2	4(月) 9(土)	授業日 登校禁止日		
	3	4 ^⑦	5 ^⑦	6 ^⑦	7 ^⑦	8 ^⑦	9				
	10	11 ^⑧	12 ^⑧	13 ^⑧	14 ^⑧	15 ^⑧	16				
	17	18 ^⑨	19 ^⑨	20 ^⑨	21 ^⑨	22 ^⑨	23				
	24	25 ^⑩	26 ^⑩	27 ^⑩	28 ^⑩	29 ^⑩	30				
12	1	2 ^⑪	3 ^⑪	4 ^⑪	5 ^⑪	6 ^⑪	7	7(土)	登校禁止日		
	8	9 ^⑫	10 ^⑫	11 ^⑫	12 ^⑫	13 ^⑫	14				
	15	16 ^⑬	17 ^⑬	18 ^⑬	19 ^⑬	20 ^⑬	21				
	22	23 ^⑭	24 ^補	25 ^補	26	27	28			24(火)-25(水) 12/28(土)-1/3(金)	補講日 冬季校舎閉鎖(学生登校禁止)
	29	30	31								
1			1	2	3	4		12/28(土)-1/3(金) 8(水) 9(木)	冬季校舎閉鎖(学生登校禁止) 卒業論文提出期限(学部卒業年次生) 修士論文提出期限(修士2年生)		
	5	6	7	8	9	10 ^⑭	11				
	12	13	14 ^⑮	15 ^⑮	16 ^⑮	17	18			17(金)-19(日)	学生登校禁止日
	19	20 ^⑯	21 ^⑯	22 ^⑯	23 ^⑯	24 ^⑯	25				
	26	27	28	29	30	31				31(金)	修士論文研究計画書提出期限(修士1年生)
2							1	3(月)-10(月) 7(金)-10(月) 4(火) 7(金) 13(木)-19(水)	卒業論文口頭試問期間 修士論文口頭試問期間 追試験願提出期限 追試験許可証発行/再試験該当者発表/再試験願提出期限/再試験許可証発行 追試験・再試験		
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13 ^{追再}	14 ^{追再}	15				
	16	17 ^{追再}	18 ^{追再}	19 ^{追再}	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28					
3							1	1(土)	卒業・修了予定者発表 在学生成績発表		
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13	14	15			10(月) 15(土)	登校禁止日 学位授与式(学部・大学院)
	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29			17(月)	春季休業開始
	30	31								24(月)	登校禁止日
								31(月)	学年終・後期終了		

□ : 授業日〔①~⑮〕

□ : 試験日

1 (斜体数字) 日曜・祝日 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

□ : 事務窓口休業

第Ⅰ部

教育課程の履修について

1.人間環境大学建学の精神

人間環境学の探求

2.心理学部の教育理念

本学の理念と目的

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。(学則第1条)

心理学部の人材養成に関する目的、その他教育研究上の目的

心理学という学問に対する社会からの期待は、近年、一層、多様で細分化されたものとなっている。子どもの虐待、いじめによる子どもたちの自殺、過労死、超高齢社会における家族関係など、その解決に心理学の知見が求められる場は多岐にわたり、そして一生涯にわたるものとなっている。また、重篤な精神障害に対する心理支援だけでなく、健康な人がより健康に生涯を送るための心理支援や、支援を要する者への支援はもちろんのこと支援を要する者の周囲への支援も求められている。したがって大学における心理学教育においては、領域に対して横断的に接近する視点と人間の一生に対して縦断的に支援する視点の両視点に立脚して系統的に教育することが不可欠となる。さらに、現代社会においては“非行・犯罪”の多様化と複雑化が進み、適切な問題解決に必要な専門的知識と技能を修得した人材の養成が求められている。

こうした社会の要請に応じることができる人材を養成するためには、より総合的で専門的な教育課程を整備する必要があるため、心理学部が設置された。そして人間社会における多岐にわたる心理的課題に対応する人材養成を目的とした教育課程を心理学科に、犯罪の発生機序から支援方法の専門的知識と技能を修得し社会貢献する人材養成を目的とした教育課程を犯罪心理学科に設置した。

このような背景により設置された人間環境大学心理学部は、文化的概念および科学的実証の両側面から課題の本質を追究しようとする文理融合の教育研究を教育理念とし、心理学の専門的知識とスキルを単に修得するのではなく、広い教養と対人的関心をもって、現代社会が直面している諸問題の解決に向け実践的に取り組むことができる人材を育成することを教育研究上の目的としている。

心理学部の3つの方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間環境学を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、さらに、心理学の専門分野についての深い理解力と実践力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件とする。

- ①現代社会における諸問題を心理学的な観点から把握し、修得した専門的知識と実践的能力によって主体的に課題解決にあたることができる。
- ②人の心の働きについて科学的に分析する力と、人の心の多様性および個別性を理解する力を獲得し、それらの力を問題解決への新しい提言に活用することができる。
- ③自分自身と他者との相互の関係に関心を持ち、地域社会に貢献する人材として自身の役割を認識しつつ組織的に行動することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学部では、心の働きについて科学的に理解し、かつ、心の多様性と個別性を尊重できる力を有し、その力を活用して複雑化した現代社会の課題および多様化している心の問題に対応する人材を育成する。

・心理学科

心理学科では、心理学の基盤となる心の仕組み・働きに関する基礎知識とその研究方法、心に対するアプローチ

方法を身につけた上で、心理学の知見から多面的に現代社会の抱える課題を冷静に分析し、適切な課題の解決および支援を実践できる人材を育成する。中核となる心理学の科目として、臨床・障害領域、子ども・発達領域、対人・社会領域の3つの専門領域科目とその隣接領域科目を配置しており、心理学の学術的基盤である心理学部共通科目、実践・研究スキル科目を修得することで、心理学の幅広い知識、事象を科学的かつ多角的に分析する力、心を支援する基本的態度と技術を身につける。

・犯罪心理学科

犯罪心理学科では、心理学および犯罪心理学に関する専門的知識を有し、多角的な視点に立脚した思考力と実践力をもって、多様化した現代社会が抱える現実的な問題の分析・解決に貢献できる人材を育成する。全学共通科目と学部共通科目、他学科科目を配置し、豊かな教養と幅広い視野を養うとともに、中核となる犯罪心理学科の科目として犯罪心理学基盤科目と犯罪心理学発展科目を用意し、犯罪心理学発展科目である法心理学、犯罪科学、犯罪臨床、捜査・防犯心理学の4領域の専門科目について段階的かつ体系的に修得することで、高い専門的知識と実践的な技能を身につける。

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

心理学部では、人間と社会の関心に関心を持ち、自身の創造性と主体性を発揮しながら、心理学の知識を実社会で活かすことによって社会貢献する意欲を持つ人を求めます。心理学科および犯罪心理学科の入学者受入れに関する方針は次のとおりです。

・心理学科

心理学科では、心理学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、心理学の専門分野を実践的に学び、現代社会の諸問題について主体的に取り組み社会貢献できる人材を育成します。また、人の心を客観的に分析する科学的態度、人の心の多様性や個別性を追究する意欲、自分自身と他者との関係性への興味関心を持ち、心理学の学びを社会に生かすよう絶えざる努力をし続ける人材を求めます。心理学科での教育を受けるにあたっては、人の心を科学的に明らかにし、心の多様性や人間関係を理解する力が必要となるため、数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識と、学びに必要な論理的思考力・判断力・行動力・倫理性を有し、他者と協調・協働していくためのコミュニケーション能力を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れます。

- ・心を客観的に分析する科学的態度を持ち、心の多様性や個別性を追究する人
- ・自分自身と他者との関係性に興味関心を持ち、心理学の学びを社会に生かす努力を継続する人
- ・数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識と、学びに必要な論理的思考力・判断力・行動力・倫理性を持ち、他者と協調・協働していくためのコミュニケーション能力を備えた人

・犯罪心理学科

犯罪心理学科では、人間の心と行動や現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つとともに、多様な人間と協働しつつ、人間の心と社会に対して深い理解を得たいという強い意思があることを前提として、心理学と犯罪心理学の専門的知識と実践的な技能・能力をもって積極的に社会に貢献する人材を求めます。犯罪心理学科での教育を受けるにあたっては、専門的知識の修得に必要な知識・技能等、高等学校の教育内容にもとづく基礎学力、研究や実践的な技能・能力の修得に必要な論理的思考力、行動力、および、倫理性、共感性を身につけている学生を多様な選抜制度により受け入れます。

- ・人間の心と行動、および、現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つ人
- ・多様化した現代社会が抱える諸処の問題に対し、その分析や解決に役立てるために心理学および犯罪心理学に関する専門的知識と技能を身につける意欲を持つ人
- ・数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎的な学力を有し、学びに必要な論理的思考力、行動力、および、倫理性、共感性を備えた人

3.心理学部の教育課程について

学部共通科目

学部共通科目の概要

学部共通科目は、大学で専門的な分野を学ぶ前に、もしくは並行して学問の基礎となる力をつけるために設置された科目です。人間環境大学では、さまざまな分野の問題を総合的に把握するための基礎的学問として「人間環境学」を学びます。

人々を取り巻く環境は、自然・社会・心理・文化の面から成り立っています。その仕組みを理解した上で専門的な問題に取り組むように考えられています。また、大学では学修した成果を表現することが必要となってきます。その方法はさまざまです。文献を検索したり、資料を集め、レポートを作成したり、パワーポイントを使用してその成果を発表したりする方法を学ぶための科目が「基礎ゼミナール」です。

今の社会は外国との関係をぬきにしては成り立ちません。あらゆる分野において国際的な視野をもって対応しなければなりません。そのために基盤となる語学科目として、本学では英語やドイツ語が設置されています。本学では、英語教育の目標を、「大学卒業後、仕事で英語が使えるための素地を修得すること」とし、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」とステップアップしながら、インプットとアウトプットを総合的に運用できる能力を身につけます。これらの科目に加えて、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「ビジネス英語」も学ぶことができます。

また、現在の社会はコンピュータを利用した情報社会としての側面ももっています。情報の取り扱い方についての十分な知識がなければなりません。専門分野の学修だけでなく、社会に出てからも役に立つ情報処理の基礎を学ぶのが「情報実習」科目です。

大学を卒業した後の進路を考え、自分の将来をデザインすることも必要です。そのために「キャリアデザイン」、「キャリア教養基礎」、「ビジネスコミュニケーション」、「キャリア形成演習」という科目が設置されています。

さらに、「日本語表現論」「芸術文化論」「言語学」「海外大学単位互換科目」「スポーツ実習」などの選択科目を履修することで、心理学部において各々が専攻する心理学という学問を、より幅広い見識をもって深く学修することが可能となります。また、「生態系の機能と社会」「自然地理学」「社会環境調査概論」「現代社会と経済」等、自然環境および社会環境に関する科目も選択することができ、環境科学部も設置されている岡崎キャンパスの特色を活かした多様な観点からの学修が可能となっています。

学部共通科目の特色

「基礎ゼミナール」は1年次の学修の基礎となる科目です。そのため「基礎ゼミナール」は少人数編成クラスとし、学修方法を実践的に学ぶことができます。また、「基礎ゼミナール」では、学修面だけでなく大学生活についても総合的にサポートしています。「英語」「情報実習」も少人数編成としており、2年次以降の専門分野での学修に必要なスキルを実践的に学べる環境を作っています。その他、語学、芸術、自然、社会に関する多様な科目を選択して履修することにより、専門分野の学修をより充実させることができます。

心理学科

心理学科の概要

現代社会では、ストレスやうつといった心理的問題、子育てにかかわる問題、子どもの虐待、学校におけるいじめや不登校、労働場面におけるメンタルヘルスの問題、高齢社会における自殺や認知症の問題など、多くの心理的危機に直面しています。それゆえ、子どもや大人、そして企業で働く人、家庭を持つ人など社会に生きる一人ひとりの心の健康を支えるために、これらの問題に対応するためには、深い心理学的見識が必要となります。

心理学科では、このような個人・社会が直面している課題に対して、科学的・客観的にデータに基づいて人間心理の普遍性を学んでいきます。同時に、「個」の多様性を尊重し、複眼的に精神・心理状態の観察と分析を通し

て、「個」の心理的援助や「社会」全体への心の健康に関する知識の普及や情報提供を行うことができる人材を育成します。

この目標を達成するために、「心理学科基盤科目」（「心理学基礎科目」「実践・研究スキル科目」）、「心理学専門領域科目」、「心理学専門隣接科目」によって、人の心を理解するための土台となる心理学の基礎知識からさまざまな心理学専門領域の知識を段階的に身につけ、現代社会の抱える課題解決に向けた心理学研究の基本姿勢および心の支援に関わる技術について修得していく系統的なカリキュラムを用意しています。

卒業後は、心理学の専門的知識を活かし、多様な観点から心理状態を分析する力を持つ人材として、一般企業（営業・企画・人事・対人サービス等）、教育・福祉関連の施設（児童養護施設、介護施設）、地域社会などあらゆるコミュニティで活躍します。さらに、大学院への進学により心理支援の実践力を高め、保健・医療、教育、福祉、産業・労働分野の臨床心理士や公認心理師等の心理専門職として活躍できる人材になることも期待されます。

心理学科の特色

心理学科のカリキュラムは、人の心の仕組みや人間関係を理解する土台となる基礎知識を中心に、さまざまな実践分野に関連する専門的知識、心理分析や心理支援などの幅広い力を身につけることを重視しています。

「心理学基礎科目」では、「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法」「心理学とキャリア」などの授業を通して、心理学の基礎知識を身につけていきます。また、「実践・研究スキル科目」では、「心理学プロゼミナール」「心理学基礎実習」「心理学データ解析」「心理学文献講読」「心理学実験法」「心理学調査法」「心理学面接法」などの授業により、人の心を研究し分析するために必要な基本技能を身につけていきます。

次に「心理学専門領域科目」では、「臨床・障害領域」「子ども・発達領域」「対人・社会領域」の3つの心理学専門領域から構成されており、各領域8科目、計24科目から学ぶことができます。いずれも現代社会の心の問題や心の健康に関して理解を深める重要な学問領域となります。「臨床・障害領域」には、「臨床心理学概論」「健康・医療心理学」「心理療法論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」等の科目があり、心の問題の成り立ちからや心理的援助の理論および方法まで学ぶための科目が配置されています。「子ども・発達領域」には、「発達心理学」「教育・学校心理学」「人間存在論」「学習・言語心理学」「スクールカウンセリング」等の科目があり、人間の一生を通じた心の仕組みや働き、人の生き方、子どもを取り巻くさまざまな問題や心理・発達支援について学ぶための科目が配置されています。「対人・社会領域」には、「対人関係論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」「産業・組織心理学」「消費者心理学」等の科目があり、情報、他者の存在、人の行動や感情の相互作用、組織の人間関係といった生活・社会に直結する心理学の理論や支援について学ぶための科目が配置されています。

また、「心理学専門隣接領域科目」は、「知覚・認知心理学」「神経・生理心理学」「司法・犯罪心理学」「被害者心理学」等により、心理学専門領域の内容に関連する心理学的視点を広げるために必要な科目も配置されています。「実践・研究スキル科目」の「心理演習」「心理実習」等の科目では、心理検査や心理相談の基本技能を学び、さらに学外実習（保健・医療、教育、福祉、産業・労働、司法・犯罪の5分野の機関・施設）を通して心理職の専門性について深めていきます。最後に「卒業研究・卒業論文」の「総合演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」の科目では、専門領域のゼミに所属し、卒業研究に必要な研究テーマの探求および心理学的知見をまとめていき、卒業論文の制作に取り組んでいきます。

このように心理学科では、客観的に心の働きを捉える視点、人間を深く理解する姿勢、そしてさまざまな社会生活を営む現場に応じた支援のあり方を追究する態度を学び、個人や社会が抱える心理的課題の解決を目指し、心理的支援および心の健康に寄与できる人材を育成します。

犯罪心理学科

犯罪心理学科の概要

近年になり、犯罪をとりまく問題はますます複雑化しています。誰もが望む犯罪のない安心安全な社会を実現するためには、まず、「なぜ人は罪を犯すのか」という人間という生き物が抱えている本質的な問題に向き合う必要

があります。すなわち、犯罪という問題について考え、これに立ち向かうことは、「人間」というもの、そして、「こころ」を理解することとすることができます。

犯罪心理学科では、4年間の学びを通して心理学、および、犯罪心理学の知識・スキルを身につけ、よりよい社会・まちづくりに貢献することができる人材を育成すること、さらには、犯罪という社会における喫緊の課題に真摯に向き合うことを通して、社会におけるあらゆる問題を心理学的に分析し、解決につなげることができる人材を育てることを教育目標としています。

この目標を達成するため、犯罪心理学科のカリキュラムは、大きく犯罪心理学基盤科目と犯罪心理学発展科目から構成されています。犯罪心理学基盤科目には、基礎的な心理学の知識から段階的に専門分野の知識を身につけることができるよう、犯罪心理学を学ぶために必要となる知識とスキル、および、研究に必要な力を身につけるための科目が体系的に配置されています。

犯罪心理学発展科目には、犯罪にまつわる広範な問題に取り組むために、法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域の4つの領域の科目が用意されています。法心理学領域では、犯罪心理学を学ぶために必要となる法に関する基本的な知識を習得します。さらに、裁判に関わる問題や、冤罪という深刻な問題と深く関わっている目撃証言の心理学についても学びます。犯罪科学領域では、犯罪発生の背景にある要因について学びます。犯罪の発生には、個人の要因だけでなく、環境や社会の要因などさまざまな要因が関わっています。これらの複雑に絡み合う要因について、多角的な視点から理解を深めていきます。犯罪臨床領域では、非行少年や犯罪者の非行性や犯罪性について理解を深め、それらを改善するための処遇方法について考えます。さらに、被害に遭われた被害者や遺族が抱える問題について理解を深め、必要とされている心理的支援について考えます。捜査・防犯心理学領域では、捜査や防犯に応用されている心理学の知見や技術を学ぶとともに、現場が抱えている捜査・防犯に関する問題に対して、心理学の立場からどのような取り組みが必要かについて考えます。このように、犯罪心理学科では、犯罪にまつわる問題について、包括にかつ深く学ぶことのできるカリキュラムを用意しています。

犯罪心理学科の卒業生は、将来、特に、非行・犯罪行為やそれを取りまく周辺事象に対する多様な関連機関、業種・企業において活躍することが期待されます。また、自己および他者の心やその行動を客観的に捉え、科学的に分析する技能をもって、社会や組織が直面するさまざまな問題の分析・解決に貢献することができる人材として、企業、教育・福祉関連施設、地域社会など幅広い分野において活躍することが期待されます。さらに、大学院に進学することにより、心理アセスメントやカウンセリングに関するより深い専門知識と技能を修得し、臨床心理士や公認心理師として活躍する道も開かれています。

犯罪心理学科の特色

犯罪心理学科の科目は、学部共通科目、犯罪心理学基盤科目、犯罪心理学発展科目（法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域）、卒業研究・卒業論文から編成されています。

学部共通科目は、1年次から3年次に配置されています。特に、大学での学びの基盤となる「人間環境学」「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」「情報実習Ⅰ」「情報実習Ⅱ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「キャリアデザイン」の8科目は1年次に配置されており、これらは全て必修科目としています。

犯罪心理学基盤科目は、1年次から3年次に配置されています。犯罪心理学基盤科目は犯罪心理学を学ぶための土台となる科目であり、心理学の基礎的な知識・スキルを身につけることを目的としています。この目的のため、「心理学概論」「発達心理学」「臨床心理学概論」「教育・学校心理学」「知覚・認知心理学」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」「産業・組織心理学」などの心理学の主要な領域に関する科目に加え、「心理学研究法」「心理学統計法」「心理学データ解析」「行動科学基礎実験」「心理検査法実習」「心理学実験法」「心理学調査法」「心理学文献購読」などの心理学の研究に必要な知識・スキルを修得するために必要となる科目が配置されています。犯罪心理学基盤科目については、「心理学概論」「心理学研究法」「発達心理学」「心理学統計法」「心理学とキャリア」「臨床心理学概論」「知覚・認知心理学」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」「産業・組織心理学」の10科目を必須科目としています。

犯罪心理学科の学びの核となる犯罪心理学発展科目は、法心理学領域、犯罪科学領域、捜査・防犯心理学領域、

犯罪臨床領域の4領域の科目から構成されています。法心理学領域は、「法と倫理」「刑事政策論」「刑事法」「供述心理学」「供述心理学特論（目撃証言の心理学）」の5科目が1年次から3年次に配置されており、このうち「法と倫理」「刑事政策論」「刑事法」の3科目を必須科目としています。犯罪科学領域は、「司法・犯罪心理学概論（司法・犯罪心理学）」「犯罪社会学」「犯罪行動科学」の3科目が1年次から2年次に配置されており、これら3科目は全て必修科目です。犯罪臨床領域は、「矯正心理学」「犯罪臨床演習」「犯罪臨床事例研究」「被害者の心理学（※科目名要確認）」の4科目が2年次から4年次に配置されており、このうち「矯正心理学」の1科目を必須科目としています。捜査・防犯心理学領域は、「捜査心理学」「捜査心理学演習」「捜査事例研究」「防犯科学」の4科目が2年次から3年次に配置されており、「捜査心理学」「防犯科学」の2科目を必修科目としています。

3年次から4年次には、卒業研究のための演習科目（「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」「総合演習Ⅲ」「総合演習Ⅳ」「卒業論文」）が配置されています。3・4年次の2年間にわたり卒業研究に取り組み、4年間の学びの集大成として卒業論文をまとめていきます。

4.心理学部の教育システム

教育課程

人間環境大学の教育理念に基づき本学の教育課程は、以下のような基本的構造をもって組み立てられています。



学部共通科目

心理学部では、各学科に属する授業科目群の他に、両学科に共通する「学部共通科目」を置いています。学部共通科目は、専門的な科目を履修するために是非学習しておかねばならない科目群のことです。

学部共通科目は、以下の科目が必修となります。

基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ（各2単位）

キャリアデザイン（2単位）

人間環境学（2単位）

英語Ⅰ、Ⅱ（各2単位）

情報実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）

基礎ゼミナール

基礎ゼミナールの担当教員は、教学面だけではなく学生生活全般の相談にものります。本ゼミナールを通して有意義な学生生活をスタートさせてください。

卒業に必要な履修単位

心理学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

学部共通科目 (14単位以上)

人間環境学	(2単位)
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	(各2単位)
英語Ⅰ・Ⅱ	(各2単位)
情報実習Ⅰ・Ⅱ	(各1単位)
キャリアデザイン	(2単位)

心理学科基盤科目 (22単位以上)

心理学基礎科目	必修科目	(12単位)
実践・研究スキル科目	必修科目	(2単位)
実践・研究スキル科目	選択科目	(8単位以上)

心理学専門領域科目 (30単位以上(必修14単位・選択16単位以上))

※ただし、主領域8単位以上、副領域4単位以上履修すること

臨床・障害領域	必修科目	(4単位)
臨床・障害領域※	選択科目	(4単位以上)
子ども・発達領域	必修科目	(6単位)
子ども・発達領域※	選択科目	(4単位以上)
対人・社会領域	必修科目	(4単位)
対人・社会領域※	選択科目	(4単位以上)

心理学専門隣接科目 (4単位以上)

心理学専門隣接科目	選択科目	(4単位以上)
-----------	------	---------

卒業研究・卒業論文 (14単位)

総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(8単位)
卒業論文	(6単位)

犯罪心理学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

学部共通科目 (14単位以上)

人間環境学	(2単位)
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	(各2単位)
英語Ⅰ・Ⅱ	(各2単位)
情報実習Ⅰ・Ⅱ	(各1単位)
キャリアデザイン	(2単位)

犯罪心理学基盤科目 (40単位以上)

犯罪心理学基盤科目 必修科目	(26単位)
犯罪心理学基盤科目 選択科目	(14単位以上)

犯罪心理学発展科目 (20単位以上)

法心理学領域	(6単位以上)
犯罪科学領域	(8単位以上)
犯罪臨床領域	(2単位以上)
捜査・防犯心理学領域	(4単位以上)

卒業研究・卒業論文 (14単位)

総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(8単位)
卒業論文	(6単位)

学位について

4年以上（8年を最長とする〔2年次編入生は3年以上、7年を最長とする。3次年編入生は2年以上、6年を最長とする。〕）在学し、所定の単位を修得した者に対して学位記を授与し、「学士（心理学）」の学位を授与します。

5.学年度と授業について

学年度とは

学年度は前期と後期の2期に分かれています。前期は4月1日に始まって9月15日に終わり、後期は9月16日に始まって3月31日に終わります。

なお、当該年度の年間行事予定表および学年暦は毎年作成され、『履修の手引き』に掲載しています。

授業時間割について

卒業所要単位の修得に必要な授業科目のうち、当該年度に開講される科目を網羅した授業時間割が、毎学年度はじめに編成され告知されます。

授業は前期・後期を通じて月曜日から金曜日まで以下の授業時間帯で行われます。授業時間割の中から、各自の年次、クラス、学科に応じて、授業科目を履修することになります。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

授業期間の種類について

- (1) 「通年授業」…1年間通じて開講される授業
- (2) 「半期授業」…前期または後期に開講される授業
- (3) 「隔週授業」…1週おきに開講される授業
- (4) 「集中授業」…夏季休業期間（8月～9月）や冬季休業期間（12月）またはそれ以外の期間を利用してまとめて開講される授業

集中講義の留意事項

- ・日程の重複している授業は同時に履修することはできません。
- ・集中講義は原則として1時限～4時限まで連続して授業を行います。
- ・P34以降のカリキュラム表の曜日・時限欄に「集中」と記載されている授業科目については、履修登録の際に同表備考欄の開講日を必ず確認してください。

授業に関する留意事項

1. いずれの授業も授業回数の5分の4以上の出席が必要です。欠席回数が5分の1を越える者は定期試験受験資格を失うことになります。
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 「公欠」（忌引も含む）により、やむを得ず授業を欠席する場合は、原則として欠席の理由及び期間が記載された書類及び「欠席届（公欠願）」又は「忌引願」を教務課まで提出してください。「公欠」以外での欠席は理由のいかんにかかわらず欠席となります。この場合特に授業の欠席を教務課に届ける必要はありません。
3. 「暴風警報発令時」や「交通機関のストライキ」等の場合の授業の取り扱いについてはP55～P57の「人間環境大学 授業に関する規程」及びその別表1) および別表2) を参照してください。
4. 上記規程に記載の市町村以外の居住地に暴風警報が発令中の場合は、警報解除後なるべく早く出校してください。
5. 公共交通機関の障害で受講できなかった場合は、原則として延着証明を持参してください。
*公共交通機関の不通・遅延時の対応については、大学に届け出ている通学区間が対象です。
公欠申請時には、電車・バスの降車時に配布される延着証明書（遅延証明書等名称が異なる場合があります）が必要となりますので、必ず降車駅またはバスの運転手から受け取るようにしてください。
なお、延着証明書には日付と遅延時間の記載が必要です。鉄道会社や駅等により様式は異なりますの

で、記載されていない場合は係員の方に記載をお願いしてください。また、公共交通機関各社のHP上でも延着証明書が確認できますが、こちらは学生がその公共交通機関に乗車していた証拠にはなりませんので、本学では受理できません。

公欠

次に該当する事由により授業を欠席し、必要書類を提出した場合はこれを公欠として取り扱います。詳しくはP55～P57の「人間環境大学 授業に関する規程」を参照してください。

- ①「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき裁判員の任務を果たす場合（学部長の承認が必要）
- ②「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合（学部長の承認が必要）
- ③天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延（第3条の暴風警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、及び第3条の暴風警報の解除後も居住地域で暴風警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む）によって授業を欠席した場合。
- ④忌引きの場合（学部長の承認が必要）
- ⑤その他、特に本学が必要と認めた公の行事に参加する場合（教授会での承認が必要）

《備考》

- ・集中講義については、単位認定に必要な授業時間数の関係で公欠扱いとならない場合があるので注意すること。
- ・公欠は、授業担当教員による補講への参加や、与えられた課題等を提出し受理される等により、公欠を許可された期間を出席扱いとすることができる。課題の場合には公欠申請を受理した日から起算して2週間以内に提出すること。
- ・公欠扱いを受けようとする者は、上記①③⑤の場合は事前に所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された「受入先からの正式書類」もしくは公共交通機関の「遅延証明書（遅延時間の記載のあるもの）」（※但し、近畿日本鉄道のみ「Web遅延証明書・ICカード利用履歴もしくは定期」）、②の場合は所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された医師が作成した所定の「治癒証明書」又は「診断書」等、④の場合は所定の「忌引願」を教務課に提出すること。公欠届は事由発生日から起算して2週間以内に提出すること。

忌引（忌引願は授業の有無に関係なく提出してください）

親族に不幸があったときは、次の基準を限度として忌引きを認めます。基準日数は葬儀の日を含み連続する期間とします。忌引きは公欠に準じて扱います。

1. 配偶者：	夫・妻	10日以内
2. 血族：	1 親等（両親・子）	7日以内
	2 親等（祖父母・兄弟等）	3日以内
	3 親等（曾祖父母・叔父叔母等）	1日以内
3. 姻族：	1 親等	3日以内
	2 親等および3 親等	1日以内

《備考》

- ・忌引扱いを受けようとする者は、所定の「忌引願」及び葬儀日が明記された書類を教務課に提出してください。

休講・補講について

休講

担当の先生が学会出張や病気などやむを得ない理由で授業を休講にすることがあります。このような場合には、担当教員から連絡があり次第、ポータルサイト掲示板により連絡しますので注意してください。なお、休講となった授業については、これを補うための補講を行います。

* 休講の掲示がなく、授業開始を30分経過しても教員が出講しないときは、必ず教務課に連絡して指示を受けてください。

補講

休講などで、授業回数が不足するときなどは、補講を実施します。日程はあらかじめ掲示発表されるので、履修生は通常の授業と同様に受講してください。

* 補講は、12月24・25日の補講日または授業開講曜日の5時限終了後（18：10- 19：40）や水曜日の4・5時限目、土曜日の1・2時限目を利用して実施されます。また、教員が履修生と相談の上これ以外の曜日・時間帯になる場合もあります。

* 休講及び補講の連絡は、ポータルサイト掲示板にて行われますので、最低1日1回は確認してください。

6.単位制について

単位制

大学における教育課程は、「単位制」を採用しています。

大学設置基準では、「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。」と定められています。この45時間には、授業での学習時間と授業外の自習時間の両方が含まれており、本学の教育課程では次のように定められています。

◆1単位の学習時間

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	15～30 時間	15～30 時間	45 時間
演習及び実験、演習及び実習	15～30 時間	15～30 時間	
実験・実習・実技	30～45 時間	0～15 時間	

本学では、1学年を前期と後期に分け、各学期の授業期間を15週間と定めています。また、90分の授業を1コマ＝2時間と計算しています。従って、それぞれの授業形態について受講生の1単位あたりの1週間の学習時間は次のようになります。

◆1単位あたりの1週間の学習時間（1学期15週で完結する場合）

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	3 時間 (1.5コマ)
実習及び実験、演習及び実習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	
実験・実習・実技	2～3 時間 (1～1.5 コマ)	0～1 時間 (0～0.5 コマ)	

(学習時間の計算例)

たとえば、前期に20単位（講義16単位、実験・実習・実技4単位）を履修登録した場合、前期中に学修すべき時間は、

講 義	授業での学習時 240 時間 (16 単位×15 時間)	+	授業外の自習時 480 時間 (16 単位×30 時間)	=	720 時間
実験・実習・実技	120 時間 (4 単位×30 時間)	+	60 時間 (4 単位×15 時間)	=	180 時間
	↓		↓		
	<u>360 時間</u>		<u>540 時間</u>		

となります。

この場合、授業外の自習時間として540時間の学習が必要となりますので、前期が日曜・祝祭日も含めて18週間にわたり、126日（7日×18週）あると考えると、1日あたりに授業外で学習すべき平均時間は、

$$540 \text{ 時間} \div 126 \text{ 日} \div \underline{4.3 \text{ 時間}}$$

となります。

CAP制について

本学では、上記の単位制による1単位を修得するための学習時間をふまえ、1年間に履修登録できる上限単位※を「46単位」と定めています。これは、ほとんどの大学で設けられており、「CAP制」と呼ばれています。

むやみに科目数だけ多く登録しても勉強が追いつかずに単位が取得できないようなことが起こらないように、そして個々の科目の消化不良を防ぐためです。計画的な学習活動を行うために、本学の教育課程、卒業所要単位を『履修の手引き』の「3.心理学部の教育課程について」と「4.心理学部の教育システム」（P7～P13）でよく理解してください。

また、個々の授業科目の単位数は『履修の手引き』の「第Ⅱ部 カリキュラム」（2024年度（令和6年度）版であればP34～P42）で確認してください。

※前年度GPAが3.50以上の場合、50単位まで履修登録が可能です。

前年度GPAが0.70未満の場合、45単位までの履修登録しかできません。

7. 学修計画と履修登録について

学修計画

高校の学修では基本的に全員が同じ時間割をこなすのに対し、大学の学修は自らの興味・関心や将来の進路の希望を踏まえて4年間の学修の目標を定め、カリキュラム（大学が学生のために用意した教育メニューのこと）のなかから、自分に適した時間割を作らなければなりません。

学修計画を立てるときの主な材料およびサポート

- ・『履修の手引き』（本誌）
開講授業科目一覧・・・在学中の全授業科目のうち当該年度開講科目を参照できる
- ・『コマシラバス』・・・各授業科目の内容が参照できる
- ・『授業時間割表』・・・当年度の開講授業科目とその時間割を参照できる
- ・サポート・・・年度当初のオリエンテーション時の履修ガイダンス、メンター教員等による指導・相談等

履修登録とは

履修登録とは、前期の始めに、各自が各学期に履修しようとする授業科目を選択し、登録する手続きのことです。コマシラバス、履修の手引き等を参考に、授業の履修計画を立てた上で、ポータルサイトで履修登録することにより登録を行います。なお、履修登録期間の最終日は17時00分が登録期限です。登録期間内に不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出て下さい。また、登録後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし、必ず所持しておいて下さい。

下記の各事項に留意しながら、所定の期間内に履修登録を終了しなければなりません。

1. 所定の履修登録期間内に履修登録を完了しない者は、その学期の授業科目の履修および定期試験の受験は許可されません。
2. 所定の履修登録期間後の履修登録科目の変更・追加等は、原則として認められません。
3. 履修登録の修正が可能な期間を除き、履修登録した授業科目以外の科目を受講することはできません。
4. 授業科目によってはクラスを指定する場合があります。指定されたクラスのある場合はその指定に従って履修登録をしなければなりません。
5. 履修希望者が定員を超える場合、授業担当教員の判断により抽選などの方法により選出を行う場合があります。
6. 履修登録の確認、卒業要件の確認は、学生各自の責任のもとで行い、わからないことはメンター教員に相談してください。



履修登録の流れ

前期

履修登録の検討

○『履修の手引き』、『コマシラバス』、『授業時間割』を熟読し、メンター教員等と相談をしながら履修科目を検討する

履修登録期間

4月4日(木)~17日(水) 17:00

○ポータルサイトにログインし、期間内に履修登録を完了させる

○前期科目、後期科目および通年科目を登録

○履修登録期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席



履修登録修正期間

4月24日(水)~26日(金)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この修正期間に履修登録の修正(追加・修正)が可能

※履修登録修正期間が終了すると、履修登録の内容が確定します



後期

履修登録修正期間

9月19日(木)~26日(木)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この期間に履修登録の修正(追加・削除)が可能

○履修登録修正期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席

○前期・後期を通じて履修登録単位数は原則として46単位を超えることはできないP18「CAP制について」を参照)

履修登録のルール

- 1年間に履修科目として登録できる単位数は、原則として46単位を超えることができません。（P.18「CAP制について」を参照）。
- 授業科目の配当年次について、各自が属する学年より下位の授業を履修することはさしつかえありませんが、各自が属する学年より上位の配当年次の授業を履修することはできません。
(例)
 - ・配当年次が1・2年次の授業を3年次生が履修する場合 → 可
 - ・配当年次が3・4年次の授業を2年次生が履修する場合 → 不可
- 基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、英語Ⅰ、Ⅱなどクラスが指定されている場合は、指定クラス以外の授業を履修登録することはできません。
- 履修者を選定するにあたり抽選等の必要な科目にもかかわらず抽選等に参加しなかった場合は、その科目について当該年度の履修登録ができません。履修登録時には、抽選等の結果通りに正しく登録してください。
- 授業科目によっては、「Aを履修するためにはBを履修すること」「Ⅰを履修した後Ⅱを履修すること」といった履修条件を課している場合があるので、オリエンテーションやガイダンス等でよく確認しておいてください。
- 同一名称・同一科目コードの科目は、担当者等が異なっていても重複して履修することはできません。同一名称の授業で複数ある場合は、自分が履修すべきクラス、その授業コード、担当教員、曜日時限などを確認して履修登録を行ってください。
(例)「人間環境学」の場合
COM100 (科目コード) +01 (クラスコード) = COM10001 (授業コード)
- 過年度に単位を修得した同一名称の科目は、担当者等が異なっていても再度履修登録することはできません。
- 同一年度の同一曜日・時限に2科目以上を履修登録した場合は、履修登録修正により二重登録状態を解消しなければ両科目の履修登録とも無効になります。
- 履修登録許可の通知は行ないません。不許可の科目のみ掲示等により連絡します。
 - ・履修登録のルールに違反している場合には、履修登録不許可となります。
 - ・開講予定科目がやむを得ない理由で、不開講となる場合には、履修登録不許可となります。
- 履修希望者が少数の場合は不開講となる場合があります。
- 特定の科目に履修希望者が集中した場合、卒業年次生・上級年次生の優先、教室配当の調整、担当教員の手配などの措置の結果、次のことが生じる場合があります。予めご了承ください。
① 担当教員の変更 ② 曜日・時限の変更 ③ 希望科目の履修登録ができない
- 別に実験・実習・教材費等の必要な科目で所定の期日までに納入がない場合は、その科目の履修登録は無効となり、履修登録は削除されます。
- 3、4年次に開講される演習科目を履修するためには、前年度までに40単位以上を修得しておく必要があります。
- 3、4年次に開講される演習科目は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で修得することとし、同時に、または飛び越えて履修することはできません。
- 履修登録時のポータルサイト上での操作ミスや、履修登録の期限に遅れたことなどから生じる不利益は本人の責任となります。

履修登録内容の確認

ポータルサイトの「履修登録」メニューから確認のうえ、「印刷する」ボタンより必ず履修登録内容をプリントアウトし保管してください。履修登録時にエラーメッセージが表示された場合は正しく履修登録されませんので、内容を確認してください。

また、エラーが出ていなくても、選択間違い等により意図しない授業科目が履修登録されている場合があるため、履修登録内容をしっかりと確認してください。

ポータルサイト
人間環境大学

TOP 掲示板 履修登録 ログアウト

掲示板

- 個人へのお知らせ
- 連絡事項
- 授業関連

履修情報

- 履修登録
- 出席状況
- レポート提出
- 成績確認

● 履修登録

● 要件を確認する

後期

印刷する

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 言語表現論 岡 稔和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナールⅡ 藤高 恵 515演習室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の言語芸術と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義室	ES70301 経営学概論 新谷 あや子 221大講義室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 幸 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 宏樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論Ⅱ 菅原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 磯貝 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 藤原 真澄 526PC教室	
				HE07901 中国語Ⅱ 渡 昌弘 512教室		
6限						
7限						

▼時間割外の授業
授業の申請はありません。

履修登録内容が確認できます

履修登録内容や修得単位数が確認できます

《エラーメッセージ例》

1. 履修登録上限単位をこえています。
2. 既に登録されている科目です。
3. 曜日・時限が重複しています
4. 所属が異なるため登録できません。
5. 履修登録に必要な科目の単位が修得されていません。
6. 取消のみ許可されている科目です。

《エラーの出ない履修登録ミスの例》

- ・意図しない科目を選択し、別の科目が履修登録された。
- ・抽選科目、クラス指定科目を許可された者以外が履修登録した。
- ・期間が重複している集中講義科目が履修登録された。

【単位修得状況】欄の見方

<履修登録印刷用ページ>

【後期】

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 英語表現論 岡 隆和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナール Ⅱ 藤高 亜 515講義室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の言語芸術 と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義 室	ES70301 経営学概論 新谷 あや子 221大講義 室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 孝 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 水樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論 Ⅱ 豊原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 磯貝 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 藤原 真澄 526PC教室	
5限				HE07901 中国語Ⅱ 赤 昌弘 512教室		
6限						
7限						

区分ごとの卒業までに
必要な単位数

カリキュラムの科目区分

既に修得している
単位数

卒業要件を満たすために
必要な残り単位数

【卒業要件】

分野区分	要件単位	修得単位	不足単位	履修中
【基礎+専門合計】	126	46	80	
《学部共通科目》	14	18		
《精神環境科目》	22	12	10	
《自然・社会環境科目》	8	6	2	
《歴史・文化環境科目》	8	10		
《総合演習・卒業論文》	14		14	

現在履修登録をしている
単位数

履修登録の修正について

履修登録内容を修正（追加・削除）する場合は、履修登録同様に履修登録修正期間内にポータルサイト上で行ってください。

なお、原則として46単位制限を越えて追加登録はできません（P18「CAP制について」を参照）。

履修登録修正期間の最終日は17時00分（土曜日の場合12時30分）が登録期限です。なお、不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出てください。また、履修登録修正後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし必ず所持しておいて下さい。

履修登録を修正する際のルール

1. ポータルサイト上でエラー表示がある場合、履修登録の修正が必要です。
2. クラス指定科目においては、指定されたクラス以外への変更はできません。
3. 履修登録修正期間後の履修登録の修正には一切応じられません。
4. 履修登録修正期間に修正を行わなかった授業については、ポータルサイト上に掲載されている通り履修登録が完了したことになります。
5. 実験・実習・教材費等の未納により履修登録が削除された科目の単位は、1年間に履修登録ができる上限単位（46単位）の一部として算入されます（合わせてP18「CAP制について」を参照）。

《修正時のチェック》

- 授業コードは正確ですか？
- 追加する場合、その曜日・時限に既に履修登録されている科目は削除しましたか？
- 定員が設けられている授業の場合、定員内であるか確認済みですか？
- （後期の場合）修正しているのは後期開講科目だけですか？

履修登録取消制度

履修登録取消制度は、履修登録完了後（履修登録修正期間後）に期間を定め、履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たものの

- ① 授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた
- ② 授業に対する知識が不足していることに気づいた
- ③ 履修科目数を減らしたい

などといった理由から履修登録を取り消すことができる制度です。履修登録を取り消すためには、年間行事予定表で定められた期間内に教務課にある所定の用紙で取り消しの手続きを行ってください。

この期間内に履修登録取消の手続きを行った科目は、1年間の履修登録上限単位及びGPA（GPAについてはP28を参照）の算入対象とはなりません（履修登録の取り消しを行わないまま授業放棄をするとGPAの値が下がり、奨学金継続の可否などに影響します）。

《履修取り消しに関するスケジュール》

5月6日(月)～10日(金) 17:00 : 前期履修登録取り消し期間

10月4日(金)～10日(木) 17:00 : 後期履修登録取り消し期間

* 通年科目は前期履修取り消し期間中にのみ取り消すことができます。

教科書について

履修登録する授業の教科書を、教務課で配布される「教科書販売リスト」を参考に前期は4月中、後期は9月中に指定された場所等で教科書を購入してください（販売期間終了後は返品をするため入手が困難になりますので早めに購入して下さい）。一部教務課で販売するものもあります。また、必要に応じて各自で書店やオンラインにて購入をしていただいても構いません。

8. 試験について

試験には、定期試験・追試験・再試験があります。また、試験に代わるものとしてレポートが課される場合もあります。

定期試験

定期試験は、前期、後期それぞれ年間行事予定表で定める定期試験期間に行なわれます。

平常授業と教室が異なることがありますので、定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される、試験時間割には十分注意してください。

同一科目で複数クラスがある場合履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

受験資格

次のいずれかに該当する者は受験資格がありません。

1. 欠席時数が授業時間数の5分の1を超える者
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 授業料等納付金を納入していない者
3. 履修登録をしていない者
4. 履修途中で受講を辞退した者
5. 出席確認において不正行為を行った者

*試験受験後に上記事項に該当することが判明した場合、当該科目の成績は判定しません。



受験上の注意

学生証を持参していない場合は受験できません。その他受験上の注意事項は『学生便覧』の「試験」の項および「試験規程」をよく読んで必ず確認しておいてください。

*試験当日に学生証を忘れた者は試験前に教務課で仮学生証を発行してもらってください。

追試験

病気や忌引き、その他交通機関の不通など、下記に示すやむを得ない理由で定期試験を受験できなかった人が、指定された期日までに「追試験願」を提出し、許可された場合に実施される試験です。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

1. 暴風、大雨その他災害により受験することができなかった場合
2. 交通機関の不通、又は延着による場合
3. 傷病により受験できない場合
4. 公欠（忌引も含む）、又はそれに準じる場合
5. 特別の事情がある場合で、教授会で承認された場合

*医師の診断書、交通機関の延着証明など、その日時に受験が困難であった理由が分かる証明書類が必要です。

*追試験による成績は90点（S評価）を最高とします。

*追試験には所定の受験料が必要となります。

再試験

卒業予定年次に履修し不合格（D判定）となった科目のうち8単位以内を修得すれば卒業資格が与えられる場合に限り、教授会の議を経て再試験を認める場合があります。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

*再試験による成績は60点（C評価）を最高とします。

*再試験には所定の受験料が必要となります。

レポートの提出について

レポート試験の場合には原則、ポータルサイトのレポート提出システムで提出します。ただし、科目によりレポート提出方法が異なる場合がありますので、詳細は定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される定期試験案内を確認してください。

《ポータルサイトでの提出の場合》

- ①メニューから「レポート」をクリックします。
- ②アップロードの「ファイルを選択」よりファイルをアップロードしてください。
* 複数のファイルの場合は、1つのZipファイルにまとめてアップロードしてください。
- ③「提出」をクリックします。
- ④提出状況に「完了」、提出日に提出した日時が表示されたことを確認してください。
- ⑤一度アップロードしたファイルはダウンロードし、ファイルの中身をよく確認してください。

提出期限後の差し替えは一切認められません。

* 大学から支給されたメールアドレス (@uhe.ac.jp) に提出完了メールが届きます。成績が発表されるまでは、大切に保管してください。

ポータルサイト
人間環境大学

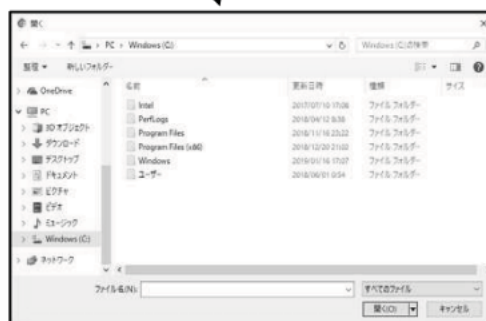
TOP 掲示板 履修登録 ログアウト

掲示板 レポート

個人へのお知らせ	授業年度	授業CD	授業名	実施期	提出期日	提出状況	アップロード	ダウンロード	提出	提出日
連絡事項	2018	ES10201	学術論文講読I	前期	2018/7/30	②	ファイルを選択 XXXXXXXXXXXXXXX.pptx	⑤	提出	③
授業関連	2018	ES11401	動物園・水族館実習	前期	2018/7/28	完了	ファイルを選択 XXXXXXXXXXXXXXX.doc	↓	提出	2018/7/25
履修情報	2018	ES70101	企業会計I	前期	2018/7/25	完了	ファイルを選択 XXXXXXXXXXXXXXX.xlsx	↓	提出	2018/7/23

① レポート

アップロードするファイル
選択画面が表示されます。



<よくあるトラブル>

- ・1科目にアップロードできるファイルは1つのみ
- ・すでにアップロードしているにも関わらず、再度アップロードする場合は、前回のデータ（ファイル）は削除されてしまいますので、ご注意ください。
- ・複数のデータ（ファイル）をアップロードする場合は、zipファイルにしてください。

9. 成績評価について

成績評価基準

成績の評価は、定期試験、レポートなどによって授業科目ごとに行われます。成績評価基準は次の通りで、成績の評価は評価点および評語で通知されます。

評価点	可否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	-	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

成績の発表

成績はポータルサイトにて通知します。前期の成績は9月中旬、後期の成績と通年科目の成績は3月上旬に通知します。

卒業年次生の成績は3月上旬の卒業予定者発表に合わせて通知します。

成績に関する問い合わせ

成績に関する質問は、科目担当教員へ直接問い合わせてください。また、自身の成績について疑問がある場合は、成績疑義申出期間内であれば、教務課にある「成績疑義申出書」にて申し出ることができます。それ以降の疑義は受け付けることができません。

成績疑義申出期間についてはポータルサイトにて成績発表時に告知します。

GPA(Grade Point Average)制度

GPA(Grade Point Average)制度は、成績評価に用いられた成績に対応したGrade Point(GP)を用い、履修した科目成績の平均値を出すものであり、アメリカの大学で一般的に行われている世界に通用する成績評価のシステムです。

このGPA制度によって、ただ卒業するのに必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としてこの制度を導入しています。また、GPAは卒業までの様々な選考の判断基準となるので、各自のGPAを常に意識し、学習計画を立ててください。

GPAの算出方法

履修登録した科目ごとの5段階評価を、4から0までのGPに置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(4.0 \times \text{Sの単位数}) + (3.0 \times \text{Aの単位数}) + (2.0 \times \text{Bの単位数}) + (1.0 \times \text{Cの単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

(GPAの実際の計算例)

科目名	単位数 (a)	評価点	評語	GP (b)	a×b
〇〇〇〇学	2	92	S	4.0	8
〇〇〇〇論	2	85	A	3.0	6
〇〇〇学I	2	55	D	0	0
□学研究法I	2	70	B	2.0	4
□学研究法II	2	62	C	1.0	2
△△基礎実習	4	0	A	3.0	12
合計	14				32

上記成績の学生の場合、

履修登録した授業科目の単位数の合計 = 14

(履修登録した授業科目の単位数 × 当該授業科目のGP) の合計 = 32

$$\text{GPA} = \frac{32}{14} = 2.29$$

となります。

* 計算式の分母には不合格科目を含め、履修登録した全ての科目の合計単位数であることに注意してください。

GPAの算定対象とならない科目

- ・ 成績の評価点が認定となる科目 (単位互換履修科目等)
- ・ 定められた期間に履修登録取り消しの手続きをした科目
- ・ その他、卒業要件に算入されない科目

成績証明書への記載内容

成績証明書には、合格科目についての評語のみが記載されます。

GPAによる学生へのフォローアップ

1つの学期GPAが2.2未満となった学生は、本人を呼び出しメンターや演習担当教員による注意と指導を行います。

10. 各種単位互換履修生制度について

単位互換履修生制度とは

単位互換履修生制度とは、大学間の交流と協力を促進し、それぞれの大学の教育内容の充実を図ることを目的として、単位互換協定を締結した大学に所属する学部学生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度です。

この制度により、多岐にわたる授業科目の履修が可能となり、皆さんの関心や興味に応じて、それぞれの特色ある授業科目や、本学にはないユニークな授業科目を履修することができます。

「自分の大学では学べない分野や内容について学んでみたい」「他大学の授業を受けることで広い考え方や見方を身につけたい」と思っている方はぜひチャレンジしてみてください。

海外大学単位互換履修制度

この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施されるものです。この協定により、協定を結んだ双方の大学に在籍する学生は、各大学が開設する単位互換履修生制度対象の科目を履修して所定の試験に合格した場合は単位を取得することができます。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 14 単位」は、本学開設科目で履修してください。

調査・研究によって知識を深めるだけでなく、異文化を背景に持つ外国人学生と活動をとるとともに、外国人学生の本学における学修活動を支援することを通して、広い視野、自主性、リーダーシップ、責任感を備えた国際人を育成することを目的とします。

この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行った上で、別途期間を定め履修登録を行います。詳細については、コマシラバスを確認してください。

- 【参加条件】 1. 責任ある態度で主体的かつ積極的な参加ができること。
2. 異文化交流に関心がある者。
3. インターネットでの交信が可能なこと。（学内PC利用も含む）

【受講料】 事前説明会の時に詳細について説明します。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することができます。

科目名称	単位数
海外大学単位互換科目Ⅰ	2
海外大学単位互換科目Ⅱ	1

【その他】 事前説明会については別途掲示で連絡します。

海外からの学生が来日しないなど交流行事そのものが実施されない場合、本科目は不開講となります。

愛知学長懇話会単位互換履修生制度

愛知県内全ての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会で締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 14 単位」は、本学開設科目で履修してください。

本学での学修に支障の出ることのないよう、履修計画を良く考えた上でお願いしてください。ただし、出願した科目が全て受講許可になるとは限りません。受け入れ先大学で選考が行われる場合もありますので注意してください。また、一旦申し込んだ後履修放棄すると授業運営上受け入れ先大学に多大な迷惑を掛けることとなります。よ

く考えた上で出願してください。

【履修対象】 2・3・4年次生

【受講料】 免除されます。但し、授業によっては実習費等別途納入が必要なものもあります。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することが出来ます。

科目名称	単位数
単位互換履修生科目A－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各2
単位互換履修生科目B－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各4

【その他】 「募集要項」、「出願票」等詳細は3月下旬より教務課で配付します。出願期間が非常に短いため、希望者は早めに教務課にて確認してください。

1 1.取得可能な資格について

公認心理師

公認心理師とは、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、支援を行う心理職の国家資格です。公認心理師の受験資格の要件については、公認心理師法に定められています。

受験資格を得るには、大学で必要な科目を修め、かつ大学院で必要な科目を修めて修了することが必要です。また、大学で必要な科目を修め、かつ国で定められた施設において、定められた期間、定められた業務に就くという方法もあります。

令和4年度以降の入学生でこの受験資格を得るためには、表1の科目を修得している必要があります。

資格の詳細や必要な科目の詳細については、厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>) を参照してください。

《表1 学部における公認心理師受験資格に必要な科目（令和4年度以降入学生）》

No	公認心理師資格取得に必要な科目	人間環境大学での授業科目
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責
2	心理学概論	心理学概論
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論
4	心理学研究法	心理学研究法
5	心理学統計法	心理学統計法
6	心理学実験	心理学実験法
7	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学
8	学習・言語心理学	学習・言語心理学
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学
10	神経・生理心理学	神経・生理心理学
11	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学
12	発達心理学	発達心理学
13	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント
15	心理学的支援法	心理学的支援法
16	健康・医療心理学	健康・医療心理学
17	福祉心理学	福祉心理学
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学
19	司法・犯罪心理学	(心) 司法・犯罪心理学 ※ (犯) 犯罪心理学概論(司法・犯罪心理学) ※
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病
22	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療
23	関係行政論	関係行政論
24	心理演習	心理演習
25	心理実習	心理実習

※については、心理学科は「司法・犯罪心理学」、犯罪心理学科は「司法・犯罪心理学概論(司法・犯罪心理学)」を履修すること

認定心理士

認定心理士とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な基礎学力と基礎技能を修得していることを公益財団法人日本心理学会が認定する資格です。この資格はあくまでも民間資格であり、国が法律に基づいて認める免許ではありません。この資格を取得する意義は、心理学の専門家として自己認識を持つことであり、医療・福祉・臨床現場で専門的な業務を行うための最低条件が揃っていることを示すことにあります。

令和4年度以降入学生でこの資格を取得するためには、表2の基礎科目 a, c 領域の開講科目すべての8単位とb領域から4単位以上を取得し、さらに、選択科目を24単位以上取得することが必要となります。

資格取得は原則として卒業後になりますが、要件を満たせば4年次に申請し仮認定として認められることもあります。資格申請の詳細については、公益財団法人日本心理学会ホームページ (<http://www.psych.or.jp/qualification/index.html>) を参考にしてください。

《表2 認定心理士資格取得に関わる科目一覧（2022年度（令和4年度）以降入学生用）》

	領域	開講科目	認定単位
基礎科目	a 心理学概論	心理学概論 教育・学校心理学	2 2
	b 心理学研究法	心理学統計法 心理学研究法 心理学データ解析	2 2 2
	c 心理学実験・実習	心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ ※1 行動科学基礎実験 ※2 心理検査法実習 ※2	2・2 2 2
選択科目	d 知覚心理学・学習心理学	学習・言語心理学 知覚・認知心理学 感情・人格心理学	2 2 2
	e 生理心理学・比較心理学	神経・生理心理学	2
	f 教育心理学・発達心理学	発達心理学	2
	g 臨床心理学・人格心理学	障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学 ※1 犯罪心理学概論（司法・犯罪心理学）※2 矯正心理学 ※2	2 2 2 2 2
	h 社会心理学・産業心理学	社会・集団・家族心理学 対人関係論 ※1 産業・組織心理学	2 2 2
その他	i 心理学関連科目、卒業論文・卒業研究	総合演習Ⅲ 総合演習Ⅳ	2 2

※1は心理学科の科目、※2は犯罪心理学科の科目です。

注1) 基礎科目 a, c は開講科目 4, 4 単位必修です。b 領域から 4 単位以上取得します。

注2) 選択科目 d から h の 5 領域のうち、3 領域以上で 4 単位以上、5 領域合計 16 単位以上取得します。

注3) 基礎科目、選択科目、その他の総計が 36 単位以上必要です。

注4) 上記の科目は、開講年度によって領域や科目名が変更される場合がありますので、日本心理学会のホームページに従って手続きをしてください。

なお、認定心理士（心理調査）は、心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士として位置づけられています。認定心理士（心理調査）の資格申請には、認定心理士の申請要件を満たしていることが必要です。詳しくは公益財団法人日本心理学会のホームページ

(<http://www.psych.or.jp/qualification/index.html>) を参考にしてください。

《表3 認定心理士（心理調査）資格取得に関わる心理調査関係科目一覧（2022年度以降入学生用）》

	領域	本学開講科目	認定される 単位数
1 概論	心理調査概論・心理調査法	心理学研究法	1
		社会環境調査概論	1
2 統計	心理学統計	心理学統計法	2
3 実践	発展／展開研究（実習）	総合演習Ⅲ・Ⅳ	4

注1)1概論，2統計で各領域2単位以上取得し，さらに，3実践では卒業論文4単位分を申請します。ただし，卒業論文の内容は，調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査などの方法を用いて，自ら計画し，データの採取，処理，解析を行う内容に限ります。また，3実践領域における卒業論文のみでの申請は2026年3月31日までの対応です。

注2)3実践の認定には，報告書の提出が義務付けられています。卒論研究の報告書は，タイトル・問題と目的・方法・結果・考察と展望・引用文献などからなるA4，1枚で作成します。報告書の様式については担当教員に相談してください。報告書の内容によっては認定されない場合があります。

注3)上記の科目は変更される場合がありますので注意してください。

第Ⅱ部

カリキュラム

心理学部 心理学科カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	人間環境学	1	2	前期	水	1	工藤 顕太	必修	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	前期	月	3	菅原 太		必修・クラス指定科目
					月	3	二宮 有輝		
					月	3	米澤 由実子		
					水	2	花井・米澤		
					木	3	花井 しおり		
					木	3	丸山 宏樹		
					木	4	柴田 一匡		
					木	4	鎌水 秀和		
					木	4	和田 剛宗		
					木	4	工藤 顕太		
	基礎ゼミナールⅠ（再履修）	1	2	前期	火	5	菅原 太		
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	後期	月	3	菅原 太	必修・クラス指定科目	
					月	3	二宮 有輝		
					月	3	米澤 由実子		
					水	2	花井・米澤		
					木	3	花井 しおり		
					木	3	丸山 宏樹		
					木	4	柴田 一匡		
					木	4	鎌水 秀和		
					木	4	和田 剛宗		
					木	4	工藤 顕太		
	基礎ゼミナールⅡ（再履修）	1	2	後期	火	5	菅原 太		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり	8/7~8/12	
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり		
	単位互換履修生科目	別途要項を確認してください。							
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	2	樋口 貴子	必修	
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子		
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子		
	情報実習Ⅰ	1	1	前期	水	2	柴田 一匡	必修・クラス指定科目	
					木	4	山本 翔		
					金	3	杉谷 誠弥		
金					4	杉谷 誠弥			
情報実習Ⅰ（再履修）	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥			
情報実習Ⅱ	1	1	後期	水	2	柴田 一匡	必修・クラス指定科目		
				木	4	山本 翔			
				金	3	杉谷 誠弥			
				金	4	杉谷 誠弥			
情報実習Ⅱ（再履修）	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥			
スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太			
英語Ⅰ	1	2	前期	木	3	岡 良和	必修・クラス指定科目		
				木	5	岡 良和			
				金	3	岡 良和			
				金	4	岡 良和			
英語Ⅱ	1	2	後期	木	3	岡 良和	必修・クラス指定科目		
				木	5	岡 良和			
				金	3	岡 良和			
				金	4	岡 良和			
英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和			
英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和			
英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀			
英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀			

心理学部 心理学科カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考		
学部 共通 科目	ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平			
	ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平			
	日本語表現論	1	2	前期	火	3	花井 しおり			
	芸術文化論	1	2	後期	火	1	菅原 太			
	言語学	1	2	後期	木	2	岡 良和			
	キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園			
	生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一			
	自然地理学	1	2	前期	金	2	横家 将納			
	海と川の生物学	1	2	前期	金	1	西田 美紀			
	環境情報リテラシー	1	2	前期	月	2	薄井 智貴			
	社会環境調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月			
	現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二			
	環境昆虫学	1	2	後期	火	2	久松 定智			
	生態系における物質循環	1	2	後期	火	1	神本 祐樹			
	環境情報と社会	1	2	後期	木	1	平山 高嗣			
	環境リサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月			
	生物資源学	2	2	後期	金	3	織田 銃一			
	環境と多文化共生	2	2	後期	木	1	鬼谷 美紀			
データサイエンス概論	2	2	前期	月	3	薄井 智貴				
心理学 基礎 科目	心理学概論	1	4	前期	火	1・2	巖島 行雄	必修		
	心理学研究法	1	2	前期	木	1	鎌水 秀和	必修		
	心理学統計法	1	4	後期	火	3・4	吉武 久美	必修		
	心理学とキャリア	1	2	後期	火	2	三後 美紀	必修		
	実践・ 研究 スキル 科目	心理学基礎実習Ⅰ	2	2	前期	金	3・4	吉武・杉山・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理学基礎実習Ⅱ	2	2	後期	金	3・4	吉武・建部・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理学データ解析	2	2	前期	月	4	西木 貴美子	定員49名	
						月	5	布井 雅人	定員49名	
						火	4	鎌水 秀和	定員49名	
		心理学プロゼミナール	2	2	前期	月	4	二宮 有輝	} 必修	
						木	3	坂本 真也		
						木	3	和田 剛宗		
						木	3	鎌水 秀和		
		心理学 基礎 科目	心理学文献講読	2	2	後期	火	4	鎌水 秀和	
			心理学英語文献講読	3	2	前期	木	1	岡 良和	
			心理学専門文献講読	3	2	後期	月	1	二宮 有輝	
	心理学実験法		2	2	後期	金	1	鎌水 秀和	定員30名	
						火	3	鎌水 秀和	定員30名	
	心理学調査法		3	4	前期	月	1・2	西木 貴美子	定員49名	
						火	1・2	吉武 久美	定員49名	
心理学面接法	3		4	前期	火	3・4	柴田 一匡	定員50名		
心理演習	3		2	前期	月	2	高橋・丸山	定員30名		
心理実習	3		2	通年	その他		三後・坂本・高橋 丸山・二宮・和田 今井田・(米澤)	定員30名		
心理学ケース研究	3		2	後期	月	4	高橋 蔵人			

心理学部 心理学科カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
心理学専門領域科目	臨床・障害領域	臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝	必修
		健康・医療心理学	2	2	前期	月	1	今井田 貴裕	必修
		公認心理師の職責	2	2	前期	水	3	來多 泰明	
		障害者・障害児心理学	2	2	後期	金	2	柴田 一匡	
		心理学的支援法	3	2	前期	木	3	石塚 友也	
		心理的アセスメント	3	2	後期	木	2	山内 知里	
		心理療法論	3	2	前期	木	2	坂本 真也	
		精神疾患とその治療	3	2	後期	火	3~5	村瀬 聡美	10/8 (3-4限)、10/22 (4-5限)、10/29 (3-4-5限)
	子ども・発達領域	発達心理学	1	4	前期	金	1・2	丸山 宏樹	必修
		教育・学校心理学	1	2	後期	月	4	坂本 真也	必修
		学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和	
		人間存在論	1	2	後期	木	1	工藤 顕太	
		教育思想	2	2	後期	火	2	工藤 顕太	
		福祉心理学	3	2	前期	月	4	山脇・米澤	
		子どもの心理療法	3	2	後期	木	1	坂本 真也	
		スクールカウンセリング	4	2	前期	本年度不開講			
	対人・社会領域	社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美	必修
		関係行政論	2	2	前期	月	2	後藤 有里	
		感情・人格心理学	2	2	後期	木	2	西木 貴美子	
		対人関係論	1	2	後期	金	2	池田 信子	必修
産業・組織心理学		3	2	前期	金	1	和田 剛宗		
消費者心理学		3	2	後期	木	3	西山 めぐみ		
犯罪行動科学		3	2	後期	月	2	山脇 望美		
コミュニケーション論		2	2	後期	木	1	岡 良和		
隣接科目	知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ		
	法と倫理	2	2	後期	水	1	工藤 顕太		
	司法・犯罪心理学	2	2	後期	月	3	山脇 望美		
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	後期	火	1	西 由紀		
	神経・生理心理学	3	2	後期	金	2	西山 めぐみ		
	被害者心理学	4	2	前期	本年度不開講				
卒業研究・卒業論文	総合演習Ⅰ		3	2	前期	水	1	三後 美紀	必修
		水				1	高橋 蔵人		
		水				1	坂本 真也		
		水				1	和田 剛宗		
		水				1	丸山 宏樹		
		水				1	二宮 有輝		
		水				1	柴田 一匡		
		水				2	吉武 久美		
	水	2	鎌水 秀和						
	総合演習Ⅱ		3	2	後期	水	1	三後 美紀	必修
		水				1	高橋 蔵人		
		水				1	坂本 真也		
		水				1	和田 剛宗		
		水				1	丸山 宏樹		
		水				1	二宮 有輝		
水		1				柴田 一匡			
水		2				吉武 久美			
水	2	鎌水 秀和							
総合演習Ⅲ	4	2	前期	本年度不開講			必修		
総合演習Ⅳ	4	2	後期	本年度不開講			必修		
卒業論文	4	6	通年	本年度不開講			必修		

心理学教科目表

科目の種類	学部の共通科目	心理学科基礎科目										心理学専門領域科目						卒業研究・卒業論文	学年ごとの人材育成目標			
		心理学基礎科目		実証・研究スキル科目		臨床・障害領域		子ども・発達領域		対人・社会領域		心理学専門領域科目		卒業研究・卒業論文								
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択									
1年次	前期	人間環境学	2	英語Ⅰ	2	心理学概論	4					発達心理学	4						心理学の全体像を把握するとともに、現代社会が抱えている心理的問題に対しての課題意識を高め、必要とされる人材像を各自が持つ。			
		基礎ゼミナールⅠ	2	ドイツ語Ⅰ	2	心理学研究法	2															
		キャリアデザイン	2	日本語表現論	2																	
		情報実習Ⅰ	1	生態系の機能と社会	2																	
		英語Ⅰ	2	自然地理学	2																	
			2	海と川の生物学	2																	
	後期		2	環境情報リテラシー	2																	
			2	社会環境調査概論	2																	
			2	現代社会と経済	2																	
		基礎ゼミナールⅡ	2	スポーツ実習	1	心理学統計法	4	臨床心理学概論	2			教育・学校心理学	2	人間存在論	2	対人関係論	2					
		情報実習Ⅱ	1	英会話Ⅱ	2	心理学とキャリア	2															
		英語Ⅱ	2	ドイツ語Ⅱ	2																	
2年次	前期		2	芸術文化論	2												専門的な講義による高度な知識と、実践・研究方法を身につけ、実証的課題解決を図ることできる人材を目指す。					
			2	言語学	2																	
			2	環境昆虫学	2																	
			2	生態系における物質循環	2																	
			2	環境情報と社会	2																	
			2	環境リサーチ&プランニング	2																	
	後期		1	キャリア教育基礎	1																	
		通年	2	海外大学単位互換科目Ⅰ	2																	
			2	英語Ⅲ	2	心理学プロセミナール	2	健康・医療心理学	2	公認心理師の職務	2	学習・言語心理学	2	社会・集団・家族心理学	2	関係行政論		2	知覚・認知心理学	2		
			2	データサイエンス概論	2	心理学基礎実習Ⅰ	2	心理学データ解析	2													
			2	英語Ⅳ	2	心理学基礎実習Ⅱ	2															
			2	生物資源学	2	心理学文献講読	2	障害者・障害児心理学	2			教育思想	2			感情・人格心理学		2	司法・犯罪心理学	2		
3年次	前期		2	環境と多文化共生	2	心理学実験法	2											専門的な講義と、演習形式による授業での討論を通して、学生自身の研究テーマを明確にしていく。研究を進めていく中で、これまでで得た知識や技術を統合して、現代社会の課題解決と心の健康に寄与する思考力と実践力を持った人材を目指す。また、一部の学生は臨床心理士・公認心理師として社会に貢献する人材を目指す。				
			2	通年	1	海外大学単位互換科目Ⅱ	1															
			2	ビジネスコミュニケーション	2	心理演習	2	心理療法学	2			福祉心理学	2			産業・組織心理学	2		総合演習Ⅰ	2		
			2	心理学英語文献講読	2			心理学的支援法	2													
			4	心理学講義法(2コマ連続)	4																	
			4	心理学演習法(2コマ連続)	4																	
	後期		1	キャリア形成演習	1	心理学専門文献講読	2	心理学ケース研究	2	心理的アセスメント	2	子どもの心理療法	2			犯罪行動科学	2		神経・生理心理学	2	総合演習Ⅱ	2
			2	心理実習	2					精神疾患とその治療	2					消費者心理学	2					
			2	通年	2																	
			2	前期								スクールカウンセリング	2			被害者心理学	2		総合演習Ⅲ	2		
			2	後期																		
			6	通年																		
4年次	前期		2	卒業論文	6													心理学を基礎とした4年間の総合的な学びの総括により、単に専門的知識を有する人材ではなく、現代社会の課題への対応力を有した人材となることを目指す。				
			2	前期																		
			2	後期																		
			2	通年																		
			2	前期																		
			2	後期																		
	通年		6	卒業論文	6																	
			2	前期																		
			2	後期																		
			2	通年																		
			2	前期																		
			2	後期																		
身につく知識・能力	<p>大学で学ぶ専門的な分野の諸課題を総合的に捉えるための学問的基礎を身につける。また、国際化・情報化が進展する社会で活躍するための基礎力を修得する。さらに、グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献するための基礎的スキルを育成し、企業・地域社会などに等与する活動能力の基礎を完成する。</p> <p>心理学を深く学ぶ上で土台となる。心理学の幅広い領域の基礎知識。各領域の多様な研究法。研究に必要な実験・検査・調査・面接などの実務方法や学術的な方法論に関する知識を体系的な学際的・専門的な文献の講読を通して身につける。</p> <p>人のこころが失調をきたす機序を理解し、失調をきたしたこころへの援助方法について、これまで臨床心理学分野や精神医学分野で積み上げられてきた知識を身に付ける。さらに、こころの病だけでなく、健康なこころについても理解を深める。</p> <p>人の生涯にわたる発達段階の心理学的特徴と課題について理解を深め、洞察力を養う。さらに、人の生き力全般や、学校現場および子どもを取り巻く諸問題について、その背景要因を分析する力や援助のあり方を探究し応用する力を身につける。</p> <p>対人関係や集団・組織における人の意識および行動についての心的過程や、家族・集団・文化が個人に及ぼす影響について説明する力。職場や組織における問題に対して必要な心理に関する支援とその方法を理解し、応用する力を身につける。</p> <p>心理学の基礎分野である知覚・認知・神経生理に関する知識や司法・犯罪分野の知識や実践課題について学ぶことで、心理学専門領域の学びを体系的に捉える視点を身につける。</p> <p>現代社会の問題や心理現象を分析・統合して深く思考力。他者との相互の考え方を理解し、問題を探究していく力。他者へ働きかける表現力を修得する。</p>																					

心理学部 犯罪心理学科カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	人間環境学	1	2	前期	水	1	工藤 顕太	必修	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	前期	水	2	山脇 望美	必修・クラス指定科目	
					水	2	今井田 貴裕		
					水	2	西木 貴美子		
					金	4	血谷 陽子		
	基礎ゼミナールⅠ (再履修)	1	2	前期	火	5	菅原 太		
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	後期	水	2	山脇 望美	必修・クラス指定科目	
					水	2	今井田 貴裕		
					水	2	西木 貴美子		
					金	4	血谷 陽子		
	基礎ゼミナールⅡ (再履修)	1	2	後期	火	5	菅原 太		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり	8/7~8/12	
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり		
	単位互換履修生科目	別途要項を確認してください。							
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	2	樋口 貴子	必修	
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子		
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子		
	情報実習Ⅰ	1	1	前期	水	2	柴田 一匡	必修・クラス指定科目	
					木	4	山本 翔		
					金	3	杉谷 誠弥		
					金	4	杉谷 誠弥		
	情報実習Ⅰ (再履修)	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥		
	情報実習Ⅱ	1	1	後期	水	2	柴田 一匡	必修・クラス指定科目	
					木	4	山本 翔		
					金	3	杉谷 誠弥		
					金	4	杉谷 誠弥		
	情報実習Ⅱ (再履修)	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥		
	スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太		
	英語Ⅰ	1	2	前期	木	3	岡 良和	必修・クラス指定科目	
					木	5	岡 良和		
金					3	岡 良和			
金					4	岡 良和			
英語Ⅱ	1	2	後期	木	3	岡 良和	必修・クラス指定科目		
				木	5	岡 良和			
				金	3	岡 良和			
				金	4	岡 良和			
英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和			
英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和			
英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀			
英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀			
ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平			
ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平			
日本語表現論	1	2	前期	火	3	花井 しおり			
芸術文化論	1	2	後期	火	1	菅原 太			
言語学	1	2	後期	木	2	岡 良和			
キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園			
生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一			
自然地理学	1	2	前期	金	2	横家 将納			
海と川の生物学	1	2	前期	金	1	西田 美紀			
環境情報リテラシー	1	2	前期	月	2	薄井 智貴			

心理学部 犯罪心理学科カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	社会環境調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月		
	現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二		
	環境昆虫学	1	2	後期	火	2	久松 定智		
	生態系における物質循環	1	2	後期	火	1	神本 祐樹		
	環境情報と社会	1	2	後期	木	1	平山 高嗣		
	環境と多文化共生	2	2	後期	木	1	鬼谷 美紀		
	環境リサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月		
	生物資源学	2	2	後期	金	3	織田 統一		
データサイエンス概論	2	2	前期	月	3	薄井 智貴			
犯罪 心理 学 基 盤 科 目	心理学概論	1	4	前期	火	1・2	巖島 行雄	必修	
	心理学研究法	1	2	前期	木	1	鎌水 秀和	必修	
	発達心理学	1	4	前期	金	1・2	丸山 宏樹	必修	
	心理学統計法	1	4	後期	火	3・4	吉武 久美	必修	
	心理学とキャリア	1	2	後期	火	2	三後 美紀	必修	
	臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝	必修	
	教育・学校心理学	1	2	後期	月	4	坂本 真也		
	人間存在論	1	2	後期	木	1	工藤 顕太		
	知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ	必修	
	社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美	必修	
	心理学データ解析		2	2	前期	月	4	西木 貴美子	定員49名
		月				5	布井 雅人	定員49名	
		火				4	鎌水 秀和	定員49名	
	行動科学基礎実験	2	2	前期	木	3・4	巖島・西山・山脇・血谷		
	学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和		
	関係行政論	2	2	前期	月	2	後藤 有里		
	健康・医療心理学	2	2	前期	月	1	今井田 貴裕		
	公認心理師の職責	2	2	前期	水	3	來多 泰明		
	感情・人格心理学	2	2	後期	木	2	西木 貴美子	必修	
	心理学実験法		2	2	後期	金	3	西山 めぐみ	定員30名
		後期			金	4	西山 めぐみ	定員30名	
	心理検査法実習	2	2	後期	木	3・4	西木・血谷・山内		
	心理学文献講読	2	2	後期	月	4	山脇 望美		
	障害者・障害児心理学	2	2	後期	金	2	柴田 一匡		
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	後期	火	1	西 由紀		
	産業・組織心理学	3	2	前期	金	1	和田 剛宗	必修	
	心理実習	3	2	通年	その他		三後・坂本・高橋 丸山・二宮・和田 今井田・(米澤)	定員30名	
	心理演習	3	2	前期	月	2	高橋・丸山	定員30名	
	心理学的支援法	3	2	前期	木	3	石塚 友也		
	心理学調査法		3	4	前期	月	1・2	西木 貴美子	定員49名
火		1・2				吉武 久美	定員49名		
福祉心理学	3	2	前期	月	4	山脇・米澤			
心理的アセスメント	3	2	後期	木	2	山内 知里			
神経・生理心理学	3	2	後期	金	2	西山 めぐみ			
精神疾患とその治療		3	2	後期	火	3~5	村瀬 聡美	10/8 (3・4限)・10/22 (4・5限)・10/29 (3・4・5限)	
	火				2	別宮 直子	11/12, 19, 26, 12/3, 10, 17, 1/14, 21		
消費者心理学	3	2	後期	木	3	西山 めぐみ			

心理学部 犯罪心理学科カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
犯罪心理学発展科目	法と倫理	1	2	後期	水	1	工藤 顕太	必修
	刑事政策論	2	2	前期	水	2	巖島 行雄	必修
	刑事法	2	2	後期	水	2	巖島 行雄	必修
	供述心理学	2	2	後期	火	3	巖島 行雄	
	供述心理学特論（目撃証言の心理学）	3	2	前期	火	4	巖島 行雄	
	犯罪心理学概論（司法・犯罪心理学）	1	4	後期	金	1・2	山脇 望美	必修
	犯罪社会学	2	2	前期	月	3	山脇 望美	必修
	犯罪行動科学	2	2	後期	月	2	山脇 望美	必修
	矯正心理学	2	2	後期	月	3	西木 貴美子	必修
	犯罪臨床演習	3	2	前期	月	3	今井田 貴裕	
	犯罪臨床事例研究	3	2	後期	金	1	西木 貴美子	
	被害者心理学	4	2	前期	本年度不開講			
	捜査心理学	2	2	前期	水	1	皿谷 陽子	必修
	捜査心理学演習	2	2	後期	木	1	皿谷 陽子	
捜査事例研究	3	2	前期	木	1	皿谷 陽子		
防犯科学	3	2	後期	金	3	皿谷 陽子	必修	
卒業論文	総合演習Ⅰ	3	2	前期	水	1	巖島 行雄	必修
					水	1	今井田 貴裕	
					水	1	西木 貴美子	
					水	1	山脇 望美	
					水	2	西山 めぐみ	
					水	2	皿谷 陽子	
	総合演習Ⅱ	3	2	後期	水	1	巖島 行雄	必修
					水	1	今井田 貴裕	
					水	1	西木 貴美子	
					水	1	山脇 望美	
					水	2	西山 めぐみ	
	水	2	皿谷 陽子					
	総合演習Ⅲ	4	2	前期	本年度不開講			必修
総合演習Ⅳ	4	2	後期	本年度不開講			必修	
卒業論文	4	6	通年	本年度不開講			必修	

犯罪心理学科科目表

科目の区分	学部共通科目		犯罪心理学基盤科目		法心理学領域		犯罪科学領域		犯罪心理学発展科目		捜査・防犯領域		卒業研究・卒業論文	学年ごとの人材育成目標	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
1年次	前期	人間環境学	2	心理学概論	4									<p>学問としての心理学の全体像を理解し、2年次以降の専門的な学習に必要な基礎知識を修得している。あわせて、心理学の研究法について理解し、実験や調査によって得られたデータの解釈に必要な心理統計の基礎知識を有している。</p>	
		基礎ゼミナールⅠ	2	心理学研究法	2										
		キャリアデザイン	2	発達心理学	4										
		情報実習Ⅰ	1	生態系の機能と社会	2										
		英語Ⅰ	2	自然地理学	2										
	後期	海と川の生物学	2												
		環境情報リテラシー	2												
		社会環境調査概論	2												
		現代社会と経済	2												
		基礎ゼミナールⅡ	2	スポーツ実習	1	心理学統計法	4	教育・学校心理学	2	法と倫理	2	犯罪心理学概論(刑法・犯罪心理学)	4		
通年	情報実習Ⅱ	1	英語Ⅱ	2	心理学とキャリア	2	人間存在論	2							
	英語Ⅱ	2	臨床心理学概論	2											
	芸術文化論	2													
	言語学	2													
	環境昆虫学	2													
2年次	前期	英語Ⅲ	2	知覚・認知心理学	2	心理学データ解析	2	刑事政策論	2	犯罪社会学	2	捜査心理学	2	<p>法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域の4領域にわたる基礎知識を身につけるとともに、それらの背景にある諸問題について考察することができる。さらに、演習・実習科目において、心理実験、心理検査、および心理調査を経験し、それぞれの研究法について理解を深めるとともに、実験や調査で得られたデータを統計的に分析して仮説検証を行い、導き出された結論について考察することができる。</p>	
		データサイエンス概論	2	社会・集団・家族心理学	2	行動科学基礎実験	2	学習・言語心理学	2	関係行政論	2	健康・医療心理学	2		
		環境と多文化共生	2	公認心理師の職業	2										
		英語Ⅳ	2	感情・人格心理学	2	心理学実験法	2	刑事法	2	犯罪行動科学	2	矯正心理学	2		
		生物資源学	2												
	後期	心理検査法実習	2												
		心理学文献講読	2												
		障害者・障害児心理学	2												
		人体の構造と機能及び疾病	2												
		海外大学単位互換科目Ⅰ	2												
3年次	前期	ビジネスコミュニケーション	2	産業・組織心理学	2	心理演習	2	心理学の支援法	2	心理学調査法	4	福祉心理学	2	<p>各人の興味・関心に基づき、法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・心理学領域に特化した知識と技能を修得する。これを通して、人の心の働きや行動を科学的に分析する力、目的の問題を多角的な視点からとらえ理論的に考察する力を身につける。</p>	
		キャリア形成演習	1	心理的アセスメント	2	心理検査法実習	2	心理学文献講読	2	障害者・障害児心理学	2	人体の構造と機能及び疾病	2		
				精神疾患とその治療	2										
				消費者心理学	2										
				心理実習	2										
	後期	心理学の発展	2												
		犯罪心理学特論(自研証書の心理学)	2												
		犯罪臨床演習	2												
		防犯科学	2												
		捜査事例研究	2												
4年次	前期	被害者心理学	2											<p>4年間の学びの総括である卒業研究への取り組みを通して、自己と他者、さらには社会との相互関係について理解を深めるとともに、心理学および犯罪心理学の専門的知識や技能をもって他者と協働して犯罪社会の課題に対応する力を身につける。</p>	
	後期	総合演習Ⅰ	2												
		総合演習Ⅱ	2												
		総合演習Ⅲ	2												
		総合演習Ⅳ	2												
		卒業論文	6												
自己づく知識・能力		グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献するための基礎的知識を修得する。また、企業・地域社会などに専攻する活動能力の基礎を完成する。	犯罪心理学発展科目の学びの基礎となる、心理学の主要な領域に関する基礎知識を修得する。	心理学の主要な領域における人間の行動やこころの働きに関する代表的な科学的知見について理解を深めるとともに、演習・実習を通して、人間の行動やこころの働きを客観的に分析し、その結果を報告するために必要となる知識と技能を修得する。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。	犯罪心理学を専門的に学んできたことにより、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。				

第Ⅲ部

教員名簿

教育課程および履修方法に関する規程

人間環境大学 授業に関する規程

校舎案内図

心理学部 専任教員名簿

(五十音順)

1限…9:10～10:40, 2限…10:50～12:20, 昼…12:20～13:10, 3限…13:10～14:40, 4限…14:50～16:20, 5限…16:30～18:00

職名	氏名	研究室	メールアドレス	オフィス・アワー (○…前期のみ、/○…後期のみ)																				備考																	
				月					火					水					木						金					土											
				1	2	昼	3	4	5	1	2	昼	3	4	5	1	2	昼	3	4	5	1	2		昼	3	4	5	1	2	昼	3	4	5	1	2	昼				
教授	敵島 行雄	5号館 559	y-itsukushima@uhe.ac.jp							/○		○/	○																												
講師	今井田 貴裕	3号館 3203	t-imaida@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	薄井 智貴	5号館 5604	t-usui@uhe.ac.jp	○			○	○	○	○	○			○	○																									※水曜日会議日は除く	
教授	岡 良和	5号館 5603	oka@uhe.ac.jp																																						
助教	鬼谷 美紀	3号館 3201	m-onidani@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	神本 祐樹	5号館 5402	y-kamimoto@uhe.ac.jp							○/	○		/○	/○			○																								
准教授	工藤 顕太	5号館 5605	k-kudo@uhe.ac.jp																																						
准教授	坂本 真也	5号館 5506	sakamoto@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
講師	皿谷 陽子	3号館 3301	y-saragai@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	三後 美紀	5号館 5507	sango@uhe.ac.jp	○	/○	○	/○			○	○/	○																													
講師	柴田 一匡	5号館 3302	k-shibata@uhe.ac.jp																																						
教授	菅原 太	3号館 3204	f-sugahara@uhe.ac.jp				○		○																																
助教	杉谷 誠弥	PC相談室	s-sugitani@uhe.ac.jp																																						
教授	高橋 蔵人	5号館 5505	k-takahashi@uhe.ac.jp	○	/○			○	○/																															※水曜日会議日は除く	
講師	谷川 彩月	3号館 3202	s-tanikawa@uhe.ac.jp				○	/○	○																															※水曜日会議日は除く	
教授	西木 貴美子	5号館 5504	k-nishiki@uhe.ac.jp				○																																	※水曜日会議日は除く	
准教授	西田 美紀	5号館 5405	m-nishita@uhe.ac.jp																																						
准教授	西山 めぐみ	5号館 5501	m-nishiyama@uhe.ac.jp																																						
講師	二宮 有輝	3号館 3303	y-ninomiya@uhe.ac.jp				○/	○																																※水曜日会議日は除く	
教授	花井 しおり	5号館 5303	hanai@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
准教授	久松 定智	5号館 5403	s-hisamatsu@uhe.ac.jp				○	○																																	
教授	平山 高嗣	5号館 5601	t-hirayama@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	藤井 芳一	5号館 5404	yoshifuj@uhe.ac.jp																																						
准教授	丸山 宏樹	5号館 5305	h-maruyama@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	山根 卓二	5号館 5602	yamane@uhe.ac.jp																																						
助教	山本 翔	5号館 543	s-yamamoto@uhe.ac.jp				○	○	○	○																															
講師	山脇 望美	5号館 5503	n-yamawaki@uhe.ac.jp				○	○																																※水曜日会議日は除く	
講師	鎌水 秀和	5号館 5304	h-yarimizu@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
教授	横家 将納	5号館 5203	m-yokoya@uhe.ac.jp																																						
教授	吉武 久美	5号館 5502	yoshitake@uhe.ac.jp																																						
助教	米澤 由実子	臨床心理相談室 研修員室	yonezawa@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	
講師	和田 剛宗	5号館 3304	yo-wada@uhe.ac.jp																																					※水曜日会議日は除く	

心理学部 非常勤講師一覧
(五十音順)

氏 名	メールアドレス	本 務 校 等
阿部 奏介	s-abe@uhe.ac.jp	
池田 信子	n-ikeda@uhe.ac.jp	
石塚 友也	t-ishizuka@uhe.ac.jp	
織田 銃一	s-oda@uhe.ac.jp	
亀山 知樹	t-kameyama@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
來多 泰明	y-kita@uhe.ac.jp	
建部 智美	t-kenpe@uhe.ac.jp	
後藤 有里	y-goto@uhe.ac.jp	
杉山 陽香	h-sugiyama@uhe.ac.jp	
鈴木 茂行	s-suzuki@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
西 由紀	y-nishi@uhe.ac.jp	人間環境大学看護学部 准教授
布井 雅人	m-nunoi@uhe.ac.jp	
樋口 貴子	t-higuchi@uhe.ac.jp	
藤野 真行	m-fujino@uhe.ac.jp	
別宮 直子	n-bekku@uhe.ac.jp	人間環境大学松山看護学部 教授
村瀬 聡美	s-murase@uhe.ac.jp	
山内 知里	c-yamauchi@uhe.ac.jp	
山田 歩実	a-yamada@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
渡邊 玲子	r-watanabe@uhe.ac.jp	
川瀬 誠子	-	(助手)
杉浦 弘美	-	(助手)
番野 まどか	banno@uhe.ac.jp	(助手)
宮西 葵	a-miyanishi@uhe.ac.jp	(助手)
安井 尚美	n-yasui@uhe.ac.jp	(助手)

※1 メールの使用については、授業担当者より指示を受けてください。

人間環境大学心理学部心理学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第1条 この規程は、人間環境大学学則第29条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 心理学科基盤科目
- (3) 心理学専門領域科目
- (4) 心理学専門隣接科目
- (5) 卒業研究・卒業論文

(卒業単位と卒業論文)

第3条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め126単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 14単位以上
ただし、必修科目14単位を含むこと
- (2) 心理学科基盤科目 20単位以上
イ 心理学基礎科目 12単位以上
ただし、必修科目12単位を含むこと
ロ 実践・研究スキル科目 8単位以上
ただし、必修科目2単位を含むこと
- (3) 心理学専門領域科目 16単位以上
ただし、必修科目14単位を含み、以下のa、b、cのいずれかの要件を満たすこと
 - a 心理学専門領域科目から臨床・障害領域科目8単位以上、子ども・発達領域科目4単位以上、対人・社会領域科目4単位以上
 - b 心理学専門領域科目から子ども・発達領域科目8単位以上、臨床・障害領域科目4単位以上、対人・社会領域科目4単位以上
 - c 心理学専門領域科目から対人・社会領域科目8単位以上、臨床・障害領域科目4単位以上、子ども・発達領域科目4単位以上
- (4) 心理学専門隣接科目 4単位以上
- (5) 総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業論文 14単位

(領域の選択)

第4条 3年次に臨床・障害領域、子ども・発達領域、対人・社会領域のいずれかを選択する。

(開設授業科目)

第5条 本学が開設する授業科目は、別表1のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第6条 1年間に履修科目として登録できる単位数は46単位以下とする。なお、前年度のGPAが3.50以上の場合、登録できる単位数は50単位以下とする。また、前年度のGPAが0.70未満の場合、登録できる単位数は45単位以下とする。

- 2 3年次配当の総合演習科目を履修する為には、前年度までに40単位以上の修得かつ通算GPA0.43以上であることを条件とし、4年次以上の学生は前年度までに40単位

以上を修得することのみ条件とする。

- 3 総合演習は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は4年の在学期間での卒業が不可となる。

(成績)

第7条 学則第34条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(総合成績評価)

第8条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た } GP \times \text{その授業科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{履修登録した授業科目の単位数の総和}$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1) 成績の評価点が認定となる科目
- (2) 定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3) その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、心理学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附則 この規程(別表改正)は、令和5年4月1日から施行する。

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	人間環境学	1	2			
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	単位互換履修生科目C-Ⅰ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅲ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	情報実習Ⅰ	1	1			
	情報実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	日本語表現論	1		2		
	芸術文化論	1		2		
	言語学	1		2		
	キャリア教養基礎	1		1		
	生態系の機能と社会	1		2		
	自然地理学	1		2		
	海と川の生物学	1		2		
	環境情報リテラシー	1		2		
	社会環境調査概論	1		2		
	現代社会と経済	1		2		
	環境昆虫学	1		2		
	生態系における物質循環	1		2		
	環境情報と社会	1		2		
	環境リサーチ&プランニング	1		2		
データサイエンス概論	2		2			
生物資源学	2		2			
環境と多文化共生	2		2			

心理学部心理学科【別表1】

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
				必修	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	基 礎 心 理 学 科 目	心理学概論	1	4				
		心理学研究法	1	2				
		心理学統計法	1	4				
		心理学とキャリア	1	2				
	心 理 学 科 基 盤 科 目	実 践 ・ 研 究 ス キ ル 科 目	心理学基礎実習Ⅰ	2		2		
			心理学基礎実習Ⅱ	2		2		
			心理学データ解析	2		2		
			心理学プロゼミナール	2	2			
			心理学文献講読	2		2		
			心理学英語文献講読	3		2		
			心理学専門文献講読	3		2		
			心理学実験法	2		2		
			心理学調査法	3		4		
			心理学面接法	3		4		
			心理演習	3		2		
			心理実習	3		2		
			心理学ケース研究	3		2		
			心 理 学 専 門 領 域 科 目	臨 床 ・ 障 害 領 域	臨床心理学概論	1		2
	健康・医療心理学	2			2			
	公認心理師の職責	2				2		
	障害者・障害児心理学	2				2		
	心理学的支援法	3				2		
	心理的アセスメント	3				2		
	心理療法論	3				2		
	精神疾患とその治療	3				2		
	子 ど も ・ 発 達 領 域	発達心理学		1	4			
		教育・学校心理学		1	2			
		学習・言語心理学		2		2		
		人間存在論		1		2		
		教育思想		2		2		
		福祉心理学		3		2		
		子どもの心理療法		3		2		
		スクールカウンセリング		4		2		
	対 人 ・ 社 会 領 域	社会・集団・家族心理学		2	2			
		関係行政論		2		2		
		感情・人格心理学	2		2			
		対人関係論	1	2				
		産業・組織心理学	3		2			
		消費者心理学	3		2			
		犯罪行動科学	3		2			
		コミュニケーション論	2		2			
	隣 接 科 目	心理学専門	知覚・認知心理学	2		2		
		法と倫理	2		2			
		司法・犯罪心理学	2		2			
人体の構造と機能及び疾病		2		2				
神経・生理心理学		3		2				
被害者心理学		4		2				
卒 業 論 文	卒業論文	総合演習Ⅰ	3	2				
	総合演習Ⅱ	3	2					
	総合演習Ⅲ	4	2					
	総合演習Ⅳ	4	2					
	卒業論文	4	6					

人間環境大学心理学部犯罪心理学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第1条 この規程は、人間環境大学学則第29条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 犯罪心理学基盤科目
- (3) 犯罪心理学発展科目
- (4) 卒業研究・卒業論文

(卒業単位と卒業論文)

第3条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め126単位以上を修得しなければならない。

- | | |
|---------------------------|---------|
| (1) 学部共通科目 | 14 単位以上 |
| ただし、必修科目 14 単位を含むこと | |
| (2) 犯罪心理学基盤科目 | 40 単位以上 |
| ただし、必修科目 26 単位を含むこと | |
| (3) 犯罪心理学発展科目 | 20 単位以上 |
| ただし、必修科目 20 単位を含むこと | |
| (4) 総合演習 I・II・III・IV、卒業論文 | 14 単位 |

(開設授業科目)

第4条 本学が開設する授業科目は、別表1のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第5条 1年間に履修科目として登録できる単位数は46単位以下とする。なお、前年度のGPAが3.50以上の場合、登録できる単位数は50単位以下とする。また、前年度のGPAが0.70未満の場合、登録できる単位数は45単位以下とする。

- 2 3年次配当の総合演習科目を履修する為には、前年度までに40単位以上の修得かつ通算GPA0.43以上であることを条件とし、4年次以上の学生は前年度までに40単位以上を修得することのみ条件とする。
- 3 総合演習は、I、II、III、IVの順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は4年の在学期間での卒業が不可となる。

(成績)

第6条 学則第34条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合格等	評価基準
100～90点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

- 2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(綜合成績評価)

第7条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、綜合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修登録した授業科目の単位数の総和}$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1) 成績の評価点が認定となる科目
- (2) 定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3) その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、心理学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附則 この規程(別表改正)は、令和5年4月1日から施行する。

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	人間環境学	1	2			
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	単位互換履修生科目C-Ⅰ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅲ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	情報実習Ⅰ	1	1			
	情報実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	日本語表現論	1		2		
	芸術文化論	1		2		
	言語学	1		2		
	キャリア教養基礎	1		1		
	生態系の機能と社会	1		2		
	自然地理学	1		2		
	海と川の生物学	1		2		
	環境情報リテラシー	1		2		
	社会環境調査概論	1		2		
	現代社会と経済	1		2		
	環境昆虫学	1		2		
	生態系における物質循環	1		2		
環境情報と社会	1		2			
環境リサーチ&プランニング	1		2			
データサイエンス概論	2		2			
生物資源学	2		2			
環境と多文化共生	2		2			

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	犯罪心理学基盤科目	心理学概論	1	4		
		心理学研究法	1	2		
		発達心理学	1	4		
		心理学統計法	1	4		
		心理学とキャリア	1	2		
		臨床心理学概論	1	2		
		教育・学校心理学	1		2	
		人間存在論	1		2	
		知覚・認知心理学	2	2		
		社会・集団・家族心理学	2	2		
		心理学データ解析	2		2	
		行動科学基礎実験	2		2	
		学習・言語心理学	2		2	
		関係行政論	2		2	
		健康・医療心理学	2		2	
		公認心理師の職責	2		2	
		感情・人格心理学	2	2		
		心理学実験法	2		2	
		心理検査法実習	2		2	
		心理学文献講読	2		2	
		障害者・障害児心理学	2		2	
		人体の構造と機能及び疾病	2		2	
		産業・組織心理学	3	2		
		心理実習	3		2	
		心理演習	3		2	
		心理学的支援法	3		2	
		心理学調査法	3		4	
		福祉心理学	3		2	
		心理的アセスメント	3		2	
神経・生理心理学	3		2			
精神疾患とその治療	3		2			
消費者心理学	3		2			
犯罪心理学発展科目	法心理学領域	法と倫理	1	2		
		刑事政策論	2	2		
		刑事法	2	2		
		供述心理学	2		2	
		供述心理学特論（目撃証言の心理学）	3		2	
	学犯罪領域科	犯罪心理学概論（司法・犯罪心理学）	1	4		
		犯罪社会学	2	2		
		犯罪行動科学	2	2		
	犯罪臨床領域	矯正心理学	2	2		
		犯罪臨床演習	3		2	
犯罪臨床事例研究		3		2		
		被害者心理学	4		2	

心理学部犯罪心理学科【別表1】

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
授業科目の概要	犯罪心理学発展科目 防犯領域	捜査心理学	2	2			
		捜査心理学演習	2		2		
		捜査事例研究	3		2		
		防犯科学	3	2			
	卒業論文	総合演習Ⅰ	3	2			
		総合演習Ⅱ	3	2			
		総合演習Ⅲ	4	2			
		総合演習Ⅳ	4	2			
		卒業論文	4	6			

人間環境大学授業に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、人間環境大学学則および人間環境大学大学院学則にもとづく授業の実施に関し、必要な事項を定める。

(授業時間)

第2条 通常の授業時間は次のとおりとする。ただし、集中講義および変則授業時間は、学部、研究科でこれを定める。

学部・研究科 時限	人間環境学部/ 心理学部/ 環境科学部/ 人間環境学研究科	看護学部/ 看護学研究科	松山看護学部/ 松山看護学研究科	総合心理学部
第1時限	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40
第2時限	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20
第3時限	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40
第4時限	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20
第5時限	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00
第6時限	—	18:10~19:40	18:10~19:40	—
第7時限	—	19:50~21:20	19:50~21:20	—

(気象警報が発令された場合およびその他の場合の授業の取扱)

第3条 暴風警報、暴風雪警報、または特別警報（高潮・波浪は除く）が発令された場合の授業の取り扱いは、別表1)のとおりとする。

なお、気象警報の発表、公共交通機関の運行への影響等を総合的に勘案し、学部長および研究科長の判断により、休講措置をとる場合がある。

(大規模地震の判定会が招集された場合の授業の取扱)

第4条 地震予知情報から「警戒宣言」の発令を検討する大規模地震の判定会が招集された場合は以下のように対応する。

(1) 判定会招集当日

- ・授業開始以前に招集された場合：授業は行わない。
- ・授業開始以後に招集された場合：招集があった時から授業は行わない。

(2) 判定会招集の翌日以降

- ・判定があるまで授業は行わない。

(3) 「警戒宣言」に至らないと判定された場合(防災準備行動をとる段階)を除く)

- ・午前6時まで判定された場合：平常の時間割のとおり授業を開始する。

(4) 「警戒宣言」が発令された場合および「防災準備行動をとる段階」と判断された場合

- ・解除されるまで授業は行わない。

(公共交通機関のストライキの場合)

第5条 公共交通機関でストライキの場合の授業の取り扱いは、別表2)のとおりとする。

(授業の休講・開始の情報)

第6条 第3条、4条、5条に関する授業の休講・開始については、学内掲示・学内放送・本学ホームページにより伝達する。ただし、これらにより伝達ができない場合があるときは、第4条および別表1・2に基づき、公共放送の情報から各自で適切に判断するものとする。

(公欠の定義)

第7条 公欠とは、次の各号のいずれかに該当する場合とする。

- (1) 養護実習Ⅱおよび関係機関が行う事前オリエンテーション出席のために、授業を欠席する場合
- (2) 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき学生が裁判員としての任務を果たす場合など、公の行事に参加する場合
- (3) 「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合
- (4) 天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延(第3条の警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、および第3条の警報の解除後も居住地域で警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む)によって授業を欠席した場合。
- (5) 第3条の警報が居住地域で発令され、出校できず授業を欠席した場合
- (6) 忌引きの場合
- (7) 教授会において、第1項第1号～第6号に準じて特段の取り扱いが必要であると認められた場合

(公欠の期間)

第8条 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 前条第1号にあつては、実習に要する期間
- (2) 前条第2号にあつては、裁判所などの公の機関から指定された期間
- (3) 前条第3号にあつては、感染症による社会的影響を考慮して大学が出校停止を命じた期間
- (4) 前条第4号にあつては、当該公共交通機関の運行開始(遅延運行を含む)から2時間までとする。
- (5) 前条第5号にあつては当該居住地の警報解除から2時間とする。
- (6) 前条第6号にあつては、以下の期間

配偶者	夫・妻	10日以内
血族	1親等	7日以内
	2親等	3日以内
	3親等	1日以内
姻族	1親等	3日以内
	2親等および3親等	1日以内

- (7) 前条第7号にあつては、教学委員会(看護学部は教学・臨地実習委員会)において必要と認められた期間

2 学部長または研究科長は、遠隔地の場合またはその他特別の事由があると認めた場合、前項の日数に必要な日数を加えることができる。

(公欠の手続)

第9条 公欠の適用を受けようとする者は、次の手続を行わなければならない。

- (1) 第7条第1号、第2号または第5号にあつては、事前に所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された「受け入れ先からの正式書類」を教務課に提出する。
- (2) 第7条第3号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された医師が作成した「治癒証明書」又は「診断書」を教務課に提出する。
- (3) 第7条第4号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および当該公共交通機関の運休により終日登校できない場合を除き、当該機関が発行する「遅延証明書」を教務課へ提出する。
- (4) 第7条第5号にあつては所定の「欠席届(公欠願)」を教務課へ提出する。
- (5) 第7条第6号にあつては、所定の「忌引願」および葬儀日等が明記された「会葬礼状」等の書類を教務課に提出する。

2 学部長または研究科長は、提出された書類の審査を行い、許可を決定した場合は、大学事務局より授業担当教員へ連絡する。

(公欠による授業の取扱)

第10条 授業担当者は、補講もしくは課題等を与えることにより、公欠を許可された期間を出席とすることができる。

(規程の改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て、学長が決定する。

附 則 この規程は、平成 25 年 12 月 18 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 8 月 31 日から施行する。

附 則 1. この規程 (改正) は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 7 条第 1 号の規定は、平成 28 年度以前の入学生については改正後の規定にかかわらず、なお従前
のとおりとする。

附 則 この規程 (改正) は、平成 30 年 8 月 22 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和元年 11 月 20 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1)

<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

休講とする場合	1 愛知県西部のうち下表のいずれかの地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が発令されている場合。				
	愛知県西部	<table border="1"> <tr> <td>知多地域</td> <td>半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町</td> </tr> <tr> <td>西三河南部</td> <td>岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町</td> </tr> </table>	知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	西三河南部
知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町				
西三河南部	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町				
	2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除されない場合。				
暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) 解除に伴う授業の開始	<p>1 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 7 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり授業を開始する。</p> <p>2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり午後から授業を開始する。</p>				

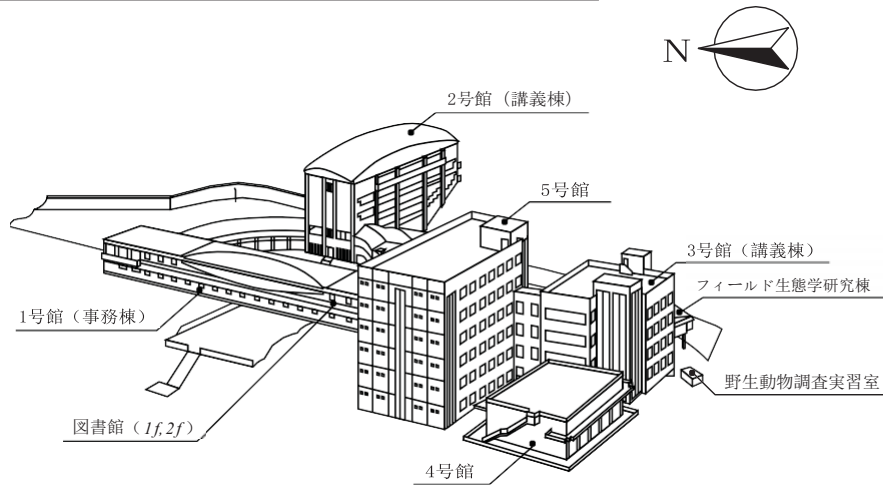
別表 2)

<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

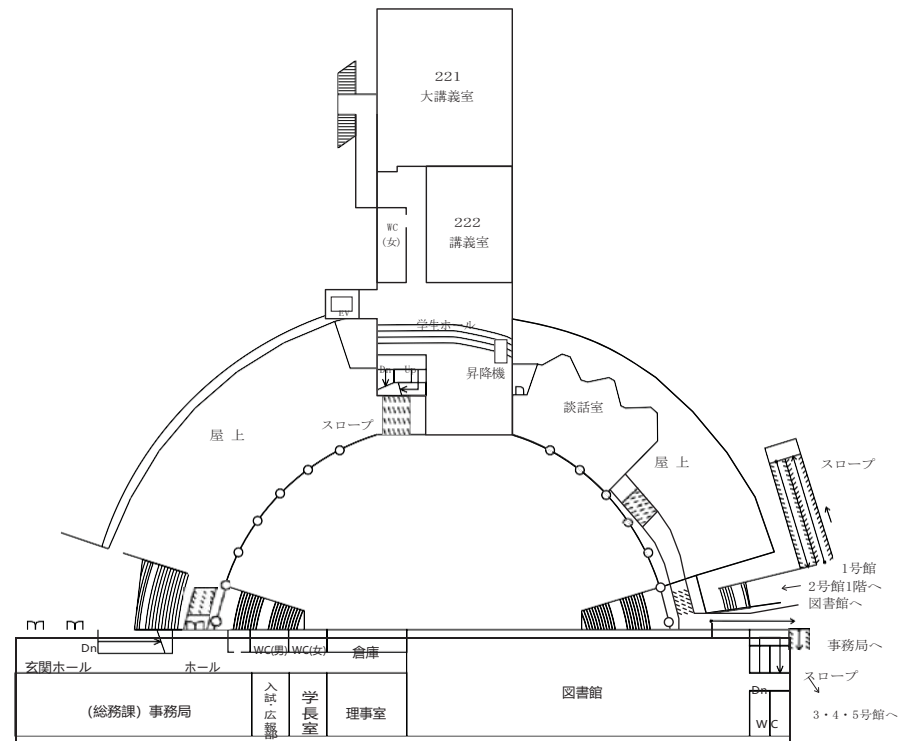
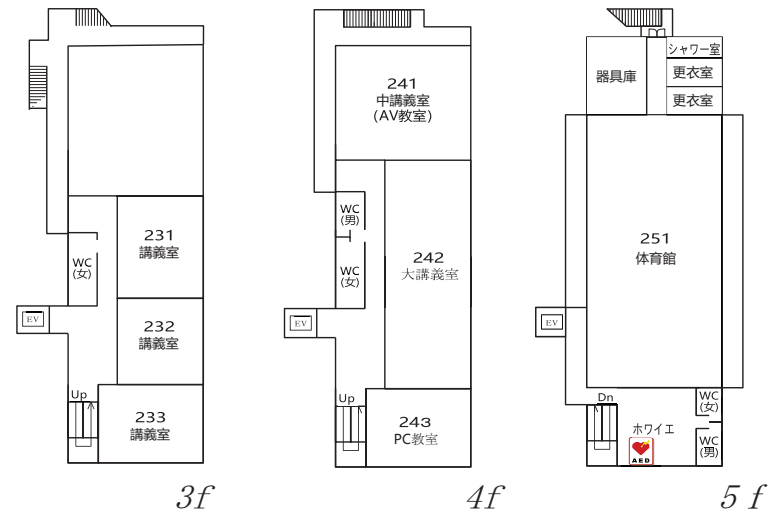
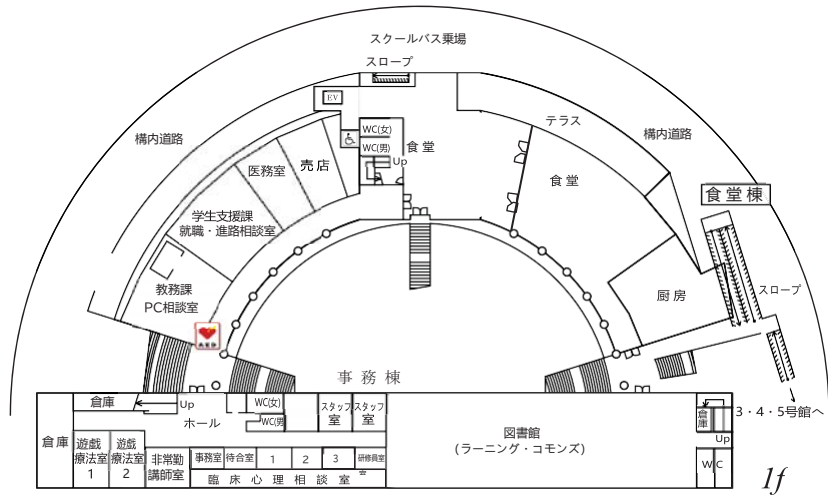
休講とする場合	名古屋鉄道が運行停止となったとき	
ストライキ終了に伴う授業の開始	名古屋鉄道が運行を再開した場合は、運行再開時間にもとづき、授業を開始する	
	運行再開時間	授業開始時限
	7:00 まで	第 1 時限
	9:00 まで	第 2 時限
	11:00 まで	第 3 時限
	13:00 まで	第 4 時限
	14:00 まで	第 5 時限

校舎案内図

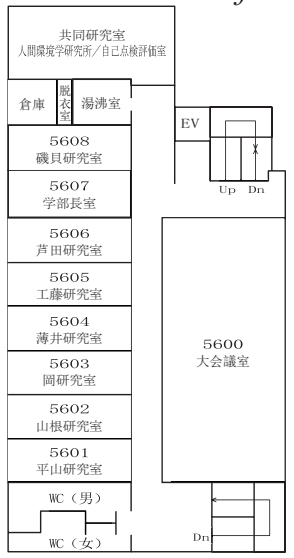
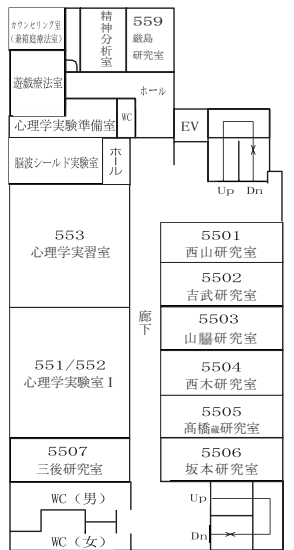
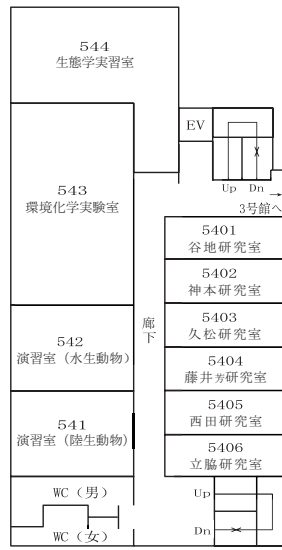
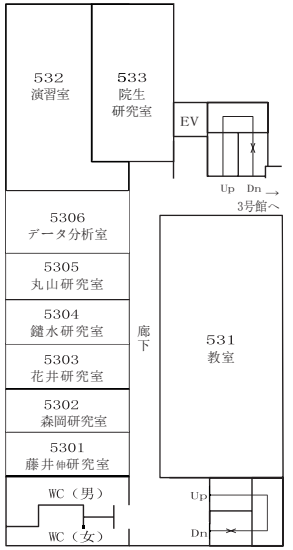
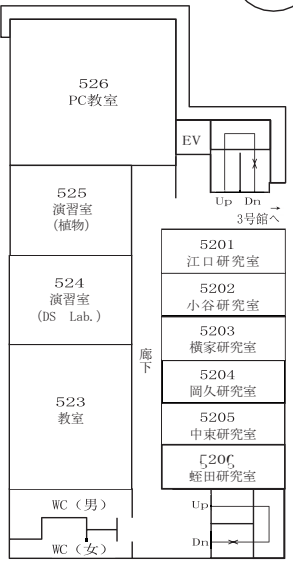
1号館（事務棟） / 2号館（講義棟）



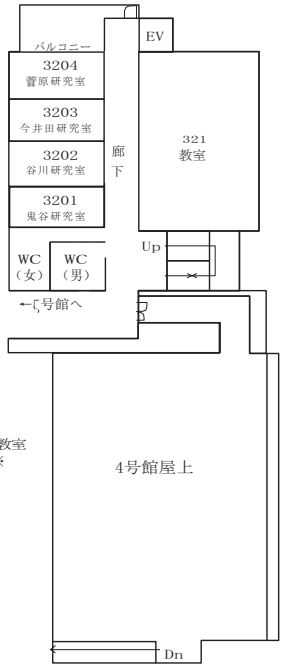
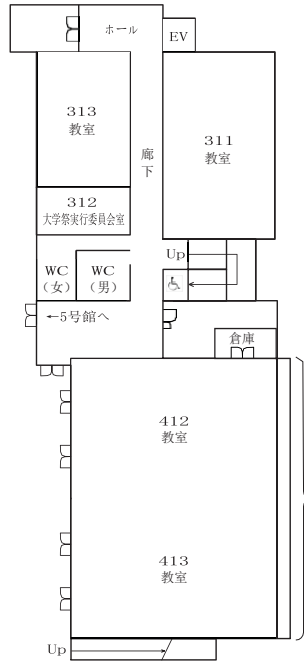
: AED



5号館



3号館 (講義棟) / 4号館



※412教室と413教室を
つなげた状態

